

国語教科書の ご案内

筑摩書房
版

内容解説資料

いつの時代にも、
変わらぬものを見据えて――

令和六年度用

'24

◆目次◆

- 筑摩書房の国語教科書 ――― ②
- 『現代の国語』のご案内 ――― ④
- 『言語文化』のご案内 ――― ③④
- 入試出題状況一覧 ――― ⑤⑧
- 指導資料・教材一覧 ――― ⑥⑩

現代の国語



現国712 現代の国語

言語文化



言文712 言語文化

「現代の国語」「言語文化」
の内容は、こちらのパンフ
レットにまとめました。

筑摩書房の国語教科書

編集委員のことば



東京大学 安藤 宏

二〇一八年に改訂された新学習指導要領で、必修科目は「現代の国語」と「言語文化」に、選択科目は「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」に分かれました。このうち「論理国語」は評論や実用文を扱い、「文学国語」は小説などの文学教材を扱うことになっています。各四単位なので両方を履修することには困難が予想され、「古典探究」も含め、教室で文学教材をどう扱うべきか、教育現場に不安と困惑が広がっています。

現在、情報化社会の中で「実用国語」化への動きが急速に進んでおり、今回の指導要領はあきらかにこうした流れに沿って作成されています。世にある文章を「論理」「実用」「文学」の三つに区分して科目に分けるという発想も、まさしくこれに深く関連する動きと言えるでしょう。

しかしわれわれ筑摩書房の編集委員会は、「役に立つ」という概念をもっと根本的な所から捉え直したいと考えています。世界の成り立ちを根源から問い返し、異質な世界や他者への想像力を育んでいく「人文知」は「国語」という教科の礎（いしずえ）をなすものです。こうした発想に立ち、「論理国語」と「文学国語」の二つの科目が相互に有機的なつながりをもって編集され、これまで培われてきた理念とあらたな時代への要請とが、高い次元でミックスされています。

情報化社会の中でこそ、功利的なものの見方に惑わされることなく、これを批判的に相対化していく力が求められるわけで、われわれは教材の選定や編集に当たって、まず何よりもこうした奥深い知性を養成していくことを目標に掲げました。ぜひわれわれの編集方針にご賛同を頂ければ幸いです。

新学習指導要領と筑摩書房の教科書

①すべての教科において「主体的・対話的で深い学び」が求められています。

【筑摩書房の教科書では】

- ・生徒が主体的に取り組めるよう、知的好奇心を刺激する教材を厳選しました。
- ・「学習の手引き」には、生徒の主体性を引き出したり、対話によって考えを深めたりすることができる課題を配しました。
- ・単元ごとに「実践」を設け、生徒の主体的・対話的で深い学びを導く工夫を例示しています。
- ・さまざまな角度からの比べ読み教材を掲載して、深い学びへと誘います。

②「思考力、判断力、表現力等」と「知識・技能」から成る「資質・能力」の育成が求められています。

【筑摩書房の教科書では】

- ・『現代の国語』『言語文化』『論理国語』『文学国語』『古典探究』ともに、収録された教材と、学習指導要領に示された「思考力・判断力・表現力」および「知識・技能」の項目との関係が一目でわかる一覧表を掲載しました。
- ・すべての単元に扉を設け、それぞれの単元で、どのような「資質・能力」を身につけたいかを示す「単元の目標」を掲示しました。
- ・各教材の冒頭に「視点」を設け、教材のどのような点に着目して学びたいかを示しました。

『言語文化』『この教科書で育成する資質・能力』

言語文化		現代の国語		1年次
・「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目」 ・「書くこと」読むことの2領域 ・「読むこと」の教材は「古文」「漢文」および小説・詩歌などの「近代以降の我が国の伝統と文化に関する文章」。		・「実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目」 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域 ・「読むこと」の教材は現代の社会生活に必要な資質・能力を育成する文章。		2・3年次
古典探究		文学国語	論理国語	
・主として「伝統的な言語文化に関する理解をより深めるためジャンルとしての古典を学習対象とする。古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとつての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を重視した選択科目」 ・「読むこと」1領域 ・教材は主として古典としての古文及び漢文。		・主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面力を育成する。深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視した選択科目。 ・「書くこと」「読むこと」の2領域 ・「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。	・主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面力を育成する。実社会において必要となる論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力の育成を重視した選択科目。 ・「書くこと」「読むこと」の2領域 ・「読むこと」の教材は「近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要なとされる実用的な文章」。	

※このほか「国語表現」（他者とのコミュニケーションの側面力を育成する科目として、実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う資質・能力の育成を重視して新設した選択科目）があります。

現代の国語

大学入試を見据え、基礎から発展まで
着実に身につく論理的思考力・表現力・判断力。



日本大学 紅野謙介

編集委員のことば

いま、私たちが使っている言葉には、目に見えない一定のルールや約束事がある。水や空気のように自然にそこにあるかのように感じている人が多いかもしれないが、実は「現代の国語」といつても偏りや特性があるし、地域や年齢、性別、階層、集団、職種などによってもさまざまな違いがある。署名のある言葉と署名のない言葉でも大きな違いがある。そのすべてを把握しきれている人はいない。共通言語があるように思っているだけで、同じ言葉ひとつとっても、自分と相手が同じ意味で使っているとはかぎらない。思春期が家族と自分は同じ言葉を共有していないと自覚することから始まるように、同じ言葉が実は同じではないと気づくことから、言葉の学びは始まる。

自分の言葉が誰にも通じていないとすれば、それは孤独への目覚めでもある。しかし、言葉の自由な使い手になるには、他者の言葉に耳をすませ、その意味するところを探りながら自分の言葉をくりだしていくしかない。相手はどのような論理を使っているのか、どうすれば相手を説得できるのか。占いの言葉を信じてしまうとき、そこではどのような力が働いているのか。こわばりから解放してくれる言葉をどのように見つければいいのか。言葉を学ぶことは、もう一度、人と人をつなげる世界への入り口なのである。

現代の国語（現国 712） 編集のポイント

- 幅広い資質・能力を養い、高校生の知的好奇心を刺激する厳選された文章
- 大学入試を意識したトピックと筆者によるバラエティ豊かな評論教材

《教材の特徴》

- ① **10単元25教材**（※筑摩書房版『精選国語総合 改訂版』収録評論より6本増・『国語総合 改訂版』より12本増）と充実のラインナップ。
- ② 教材1本につき**大学入試を意識した字数に**（2000字～4000字程度）。
- ③ 原則として各単元内の**教材配列は易↓難↑**。
- ④ **最近注目の著者や話題**から、評論読解の基本として**知っておきたい著者やテーマ**まで、バラエティ豊かな教材をセレクト。
- ⑤ 教室や生徒によつてさまざまな資質・能力を引き出せる**奥の深い教材**を厳選。

《授業を支える工夫》

- ① 学びの見通しを立てるために役立つ「**単元の目標**」と教材ごとの「**視点**」を提示。
- ② 教材ごとに学びを深める「**課題**」と「**言語活動**」を提示。
- ③ 比べ読みの練習に、「**参考**」の文章を適宜掲載。
- ④ 評論読解に必要な知識をコンパクトにまとめた**コラム**を随時掲載。
- ⑤ 実用的な知識や資質・能力を身につける「**実践**」をすべての単元の末尾に掲載。

現代の国語 編集委員

安藤 宏	東京大学
井島正博	東京大学
大橋賢一	北海道教育大学旭川校
紅野謙介	日本大学
五味洵典嗣	早稲田大学
坂口浩一	東京都立小山台高等学校
清水良典	愛知淑徳大学
関口隆一	筑波大学附属駒場中・高等学校
高田祐彦	青山学院大学
橘 直弥	灘中学校・高等学校
千野浩一	筑波大学附属駒場中・高等学校
仲島ひとみ	国際基督教大学高等学校
三上英司	山形大学
吉田 光	東京都立竹早高等学校
吉田幹生	成蹊大学

現代の国語

目次

●教材数は充実の25本。
●基本的に章ごとの教材は、易↓難へ。
●「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のアイコンで、
どの領域の「資質・能力」を養うのに適した教材かが一目瞭然。

目次 現国712
A5判・256ページ

目次



第1章 問うこと、語ること……………9

定番 境目 川上弘美……………10 境界論

新 サイエンスの視点、アートの視点 齋藤亜矢……………16 芸術論

実践 「質問する力」を育てよう……………24

新 《参考》一般化のワナ 芒野一徳……………26



第2章 評論文への招待……………29

定番 ことばとは何か 内田 樹……………30 言語論

デジタル社会 黒崎政男……………37 情報論

新 システムと変異 中屋敷 均……………43 生命論

実践 評論文の一節を引用し、自分の意見を述べよう……………50

◆評論読解のポイント……………52



第3章 ことばで伝える思いと考える……………55

ことばがつくる女と男 中村桃子……………56 ジェンダー論



第4章 情報と推論……………85

定番 身体、この遠きもの 鷲田清一……………63 身体論

新 贈り物と商品の違い 松村圭一郎……………72 贈与論

実践 メモ・ノートの取り方・活かし方を学ぼう……………81

◆要約作成のポイント……………83



第5章 「話し合い」から「議論」へ……………105

新 誰かの靴を履いてみることに ブレイディみかこ……………106 社会論

〈私〉時代のデモクラシー 宇野重規……………116 デモクラシー論

実践 「議論する力」を育てよう……………124

【読書案内】この場で重なることばと声……………126

アクティブ・ラーニング例として、「実践」を掲載。見開き2ページ。

現代文読解に必要な知識・技能を詳しいコラムで丁寧に解説。

新学習指導要領になってもおさえておきたい定番評論。

現代の国語

目次



第6章 「根拠」から「主張」へ……………127

定番 魔術化する科学技術 若林幹夫……………128 科学技術論

新 未来は存在しない 野矢茂樹……………135 論理学

定番 マルジャーナの知恵 岩井克人……………142 経済論

実践 議論の前提を明確化しよう……………148

「読書案内」思考を鍛える……………150



第7章 伝えること、受け止めること……………151

新 ポスト真実時代のジャーナリズム 国谷裕子……………152 メディア論

新 会話と対話 長田 弘……………158 コミュニケーション論

新 記憶する体 伊藤亜紗……………163 当事者論

実践 インタビューの作法……………172

実践 ビブリオバトルに挑戦しよう……………174



第8章 表現のみがき方……………175

贅沢の条件 山田登世子……………176 時間論

瓦を解かないこと 堀江敏幸……………182 レトリック



第9章 主張の論理的な伝え方……………193

来るべき民主主義 國分功一郎……………194 政治論

主体という物語 小坂井敏晶……………201 心理学

実践 意見を文章にまとめてみよう……………208

「読書案内」書くことが「世界」を創る……………210



第10章 複眼的な視点……………211

開かれた文化 岡 真理……………212 文化論

リスクと近代社会 大澤真幸……………220 リスク論

名づけと所有 西谷 修……………228 コロナリズム論

実践 対比の働きを理解しよう……………236

《参考》過去はどこに行っちゃったの？ 野家啓一・永井均……………238

付録 常用漢字表……………242

「実践」の参考や、教材同士の
比べ読みに適した〈参考〉教材。

「話す・聞く」領域の単元も参考と
なる教材をしっかり提示。

教材のポイント

《内はキーワード》



第1章 境目 川上弘美
◆境界論《具体と抽象》2100字
豊かさと同時に、危険性も秘めた「境界」というものの不思議さを論じた文章。中学生から高校生へと新たな「境目」を踏み越える子どもたちの新学期にふさわしい、冒頭教材。



第1章 サイエンスの視点、アートの視点 齋藤亜矢
◆芸術論《二項対立》2900字
「科学」の視点と「芸術」の視点は、対立するのだろうか。「科学」の見方と「芸術」の見方を二項対立で比較して、評論の基本形を押さえながら、「問いを生み出す力」「感動する力」が出発点であることに気づく評論。



第2章 ことばとは何か 内田 樹
◆言語論《分節化》2800字
ソシュールの学説をわかりやすく解説。記号論を早い段階できちんと押さえるのに最適な評論。



第2章 デジタル社会 黒崎政男
◆情報論《メディアと権力》2200字
デジタル化が進んだ社会の問題点・危険性を簡潔明快に指摘する。高度情報化社会・メディア論の基礎的評論。



第2章 システムと変異 中屋敷 均
◆生命論《進化論・生物多様性》2600字
近年大注目の生物学者による生命論。「SDGs」が話題の昨今、生命とは何か、多様性にはどのような意味があるのか、基本からきちんと解説した評論。



第3章 ことばがつくる女と男 中村桃子
◆ジェンダー論《アイデンティティ・構築主義》2900字
「女らしさ／男らしさ」は自明ではない。構築主義の観点からわかりやすく説くジェンダー論。



第6章 魔術化する科学技術 若林幹夫
◆科学技術論《合理主義・仮説と反証》2900字
「科学」は、現代では「魔術」以上に理解不可能な領域と化しうる——華麗なレトリックを通じて、「逆説」的な議論とはどのようなかを学べるスリリングな評論。



第6章 未来は存在しない 野矢茂樹
◆論理学《前提と命題・真と偽》3000字
軽妙な文体で読者の知的好奇心を刺激してやまない哲学者による、「当たり前」を疑う議論。論理学の基本である「前提」と「命題」、「真」と「偽」について、扱うことができる評論。



第6章 マルジャーナの知恵 岩井克人
◆経済論《情報社会と差異》2300字
アラビアンナイトの物語を例に、「情報」そして「資本主義」というものの本質を華麗に解説。



第7章 ポスト真実時代のジャーナリズム 国谷裕子
◆メディア論《メディアリテラシー・ポピュリズム》2400字
NHKの報道番組「クローズアップ現代」でメインキャスターを務めた著者によるメディア論。現代人が直面する「ファクト」とは何か、という問題や、メディアリテラシーの重要性をあらためて考えさせる好教材。



第7章 会話と対話 長田 弘
◆コミュニケーション論《公共圏と親密圏》1800字
コミュニケーションとは、たんに言葉を交わすだけで成立するものなのか。コミュニケーションの在り方が問われる昨今、話し合いの姿勢を詩人から学ぶ。



第7章 記憶する体 伊藤亜紗
◆当事者論《認知・感覚・記憶》4100字
視覚障害を持つ人へのインタビューを通じて、自らを取り巻く世界を再発見した筆者がその世界を、読者にどのように伝えるのか。さまざまな観点から学ぶべきことの多い教材。



第8章 贅沢の条件 山田登世子
◆時間論《物語・豊かさ》2400字
「近代（＝情報社会）」と「前近代（＝ゆったりとした贅沢な時間）」という二項対立を用いた時間論。一年生にぴったりの内容と構成。



第3章 身体、この遠きもの 鷺田清一
◆身体論《心身二元論・自意識》3900字
「身体」と「自己」との複雑な関係性を豊富な具体例と巧みな比喩で論じた、身体論の定番教材。



第3章 贈り物と商品の違い 松村圭一郎
◆贈与論《商品化、コミュニケーション》3700字
バレンタインデーに贈るチョコレートには、なぜラッピングをするのか。生徒にとって身近な話題を評論の文脈にのせると、ものの見え方はどのように変わるのだろうか。「論じる」ということの驚きを味わえる評論。



第4章 わかっていること、ないこと 堀 正岳
◆環境論《気候変動、統計》2800字
そもそも「地球温暖化」とはどのような現象なのか。人間は、地球のことがどこまでわかっていて、どこからわかっていないのか。データを駆使して物事の真実に迫る、科学者の真摯な態度に学ぶ。



第4章 兎が自分でつづつて語る生活の話 E・シートン 内山賢次訳
◆推論《帰納と演繹》1900字
克明に記録したウサギの足跡から、自然の物語を推論する思考の軌跡をたどる。古典的名著「シートン動物記」から学ぶ推論の楽しみ。



第5章 誰かの靴を履いてみること ブレイディ・みかこ
◆社会論《社会と共同体・貧困》5200字
話題作「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」が教科書に初掲載。生き生きと描かれた著者の息子の姿に、生徒たちも共感したり、考えたり、多くを学ぶことができる。



第5章 私 時代のデモクラシー 宇野重規
◆デモクラシー論《近代化》3900字
平明な文体でこの複雑な時代を解きほぐす、政治学者のデモクラシー論。民主主義の基本は「私たち」の問題を話し合うこと。では、「私たち」には誰が含まれるのだろうか。生徒たちと改めて考えたいデモクラシーの問題。



第8章 瓦を解かないこと 堀江敏幸
◆レトリック《メタファーとメトニミー》1800字
「瓦」というモノのあり方に着目して、震災後の現代社会のありよう・あるべき形を語った、骨のある文章。連想から連想へと飛躍する、詩的な文章を読みこなす力をつけられる随想的教材。



第9章 来るべき民主主義 國分功一郎
◆政治論《社会契約・主権者》3000字
若手評論家の政治論を収録。評論というよりは、「民主主義の原理を説明した解説文」といった内容で、民主主義の特性が的確に理解できる。選挙権をもつ年齢に達するまでに、民主主義の根幹にふれられる教材。



第9章 主体という物語 小坂井敏晶
◆心理学《心理・無意識》2600字
主体的決定というものがいかに頼りないものかということが、心理学的・行動学的観点から論じられる。常識を根本から切り崩す内容で、生徒に新鮮な驚きを与えること請け合いの評論。



第10章 開かれた文化 岡 真理
◆文化論《多文化主義・他者、差別》3400字
しばしば「私は私、あなたはあなた」という思考停止に陥りがちな「文化相対主義」の危険性をふまえ、「文化が違う」ということの真のありようを深く見つめる。国際化の時代、安易な「異文化理解」のお題目に惑わされず、自分を正しく世界に開いていくための評論。



第10章 リスクと近代社会 大澤真幸
◆リスク論《セキュリティと不安》3600字
選択決定すべき事柄が横溢する現代社会において、リスクへの危惧は、私たちの伝統的な意思決定のあり方をどのように変えていくのか。これからの社会の問題を暴き出す、切迫した評論。



第10章 名づけと所有 西谷 修
◆コリアリズム《西洋中心主義・先住民・歴史認識》3700字
「命名」という行為がいかに権力的なのか。近代から現代まで、絶えることなく続く支配のシステムを論じる骨太な内容。多様な「近代」論を読んだ後の、総決算として最適な評論。

●単元の扉

単元ごとに章扉をつけました。

●単元の目標：

情報を正確に読み取る

現代人の身のまわりにあふれている情報。その中には、分かりきった常識とされているが実際は事実とは異なることが見過ごされていたり、重要な真実が隠されていたりすることがある。それを追究する評論のことばにふれ、世界をより深く理解するための情報を読み取ろう。

第2章

評論文への招待

読む

各単元の「目標」を章扉に提示しました。
単元ごとの学びの見通しに役立ちます。

単元の目標

課題・実践

教材ごとの「課題」と単元ごとの「実践」を掲示。単元で身につける「資質・能力」の内容が分かります。

ことばとは何か 内田 樹……………	30
〈課題〉具体例や比喻から 抽象的な考えを読み取ろう……………	36
デジタル社会 黒崎政男……………	37
〈課題〉重要な術語を理解しよう……………	42

システムと変異 中屋敷 均……………	43
〈課題〉筆者のキーワードを抜き出そう……………	49
実践 評論文の一節を引用し、 自分の意見を述べよう……………	50
●評論読解のポイント……………	52

「資質・能力」アイコン

各単元で主に身につけたい「資質・能力」を示すアイコンを扉ごとにつけてあります。

●おすすめの教材①

生命のあり方について、最新の知見を取り上げた、本教科書から掲載の新教材。
分子生物学の研究者である著者による生命論。「生命」とは、「多様性」とは何か、
という問題を根本的にかつ正面から取り上げます。（第2章 評論文への招待）

システムと変異

中屋敷 均

〈視点〉独自の議論は独自のキーワードを必要とする。一般的な用語に与えられた、特別な意味に注目しよう。

* 知る人ぞ知るといふ感じの進化論に、「不均衡進化論」という説がある。これは一九

九二年に日本人の古澤満¹が発表した興味深い仮説である。DNAは二本の鎖から成り立
っており、複製が起ると、それぞれの鎖から二つの子孫DNAが生まれてくる（図
1）。不均衡進化論の肝となる主張は、この二つの子孫DNAでは遺伝子の変異率が異
なっており、親の片側のDNA鎖からできた子孫DNAは親とそっくりの遺伝子配列の
まま生まれてくるが、もう片側のDNA鎖から生まれる子孫DNAは変異が多く、親と
ずいぶん違った遺伝子配列を持つような仕組みになっているという説である。

生物の持つジレンマに「変わること」と「変わらないこと」の両立がある。生き物は
基本的に自分とよく似た子どもを作る。それは種の存続に欠かせない性質であるが、一
方、猿から人類が進化してきたり、環境に対応した変種が現れるような変化を生み出す
ことも、また生命に欠かせない特徴である。生物は、今のシステムを維持できないと存
続できないし、一方、そのシステムを変化させなければ環境の変化に対応できず、進化
も起こらない。「変わるべきか、変わらざるべきか」、これは生命が持つ根源的なジレ

- 1 古澤満 一九三二年。「不均衡進化論」を提唱し、発生学の進展に大きな貢献をした。
- 2 DNA 動物の主に細胞核内に存在し、遺伝機構の本体としてたんぱく質の合成を支配する。「英語」deoxyribo-nucleic acid（デオキシリボ核酸）の略。
- 3 ジレンマ 二つの相反する事柄の板挟みになること。「英語」dilemma

〈均衡〉
* 知る人ぞ知る

視点

身につけたい資質・能力について、学びの見通しを立てやすくするため、すべての教材の冒頭に掲載しています。

本文フォント

読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。

生物に変化をもたらす遺伝子の変異は、基本的にランダムに起こると考えられている。たとえば、羽を持つようにとか、首が長くなるようにといった特定の方向性を持って遺伝子が変わっていくのではなく、ランダムな変異の中でたまたま有用なものが出てくれば、それが生き残るというのが、現代の進化学が教えるところである。なんだか、ずいぶん効率が悪い方法のようにも思える。しかし「生命」がこの地球上に誕生してから四〇億年とも言われているが、その途方もない時間、途切れることなく続いてきたのは、極論すれば変異がランダムに起きてきたからなのだと、私は思っている。

たとえば、生命が海底の熱水噴出孔⁵で誕生したと仮定しよう。そこから進化がスタートすることになるが、進化というのだから、その環境にあるエネルギーや資源を効率よく利用し、より早く増殖できる、そういったことが起こっていくのだろう。そして、より効率よく、無駄を削って、その環境に適応し競争に勝ったものが生き残っていく。それは確かに素晴らしい進化である。しかし、その結果、生まれてくるのは、熱水噴出孔にあるエネルギーと資源に頼りっきりの生き物となる。なぜなら、その環境に必要なものを生み出し、それ以外の無駄は削り落として最適化されるということは、他の環境には不適になるということとほぼ同義であるからだ。このような単純な適者生存⁷の戦略を採っていたなら、生命は簡単に途絶えてしまう。それは、環境は変化するのが常であり、依存している環境が失われれば、それに最適化されたものは容易に絶滅してしまうから

15

10

5

4 ランダム 無作為。任意。

[英語] random

5 熱水噴出孔 海底にあって地熱で熱せられた水が噴出する割れ目。生物活動が活発で、複雑な生態系が成立している。

6 エネルギー 物体がもっている、物理的な仕事をする能力。力学的エネルギー（運動エネルギー）と位置エネルギー）のほか、光・電気・熱・化学・原子などのエネルギーがある。[ドイツ語] Energie

7 適者生存 生存競争において、ある環境に最も適した生物だけが生き残るという考え。

（根源的）（巧妙）
（最適化）（同義）

* 途方もない

脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載。

図版

適宜図版を挿入し、本文と照らし合わせながら、図版を読み取る力を養います。

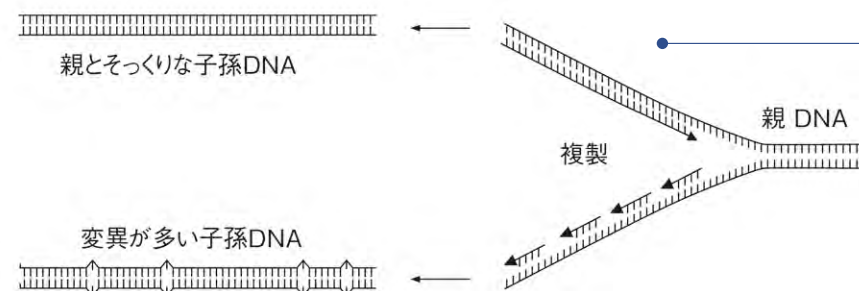


図1. 不均衡進化論によるDNA複製のモデル

ンマである。

不均衡進化論の素晴らしいところは、この生命の持つ根源的な矛盾の解決手段が、生命の源であるDNAの複製機構に備わっていると説いている点である。つまりDNAの一方の鎖からは現状を維持する、親とそっくりな子孫が生まれ、もう一方の鎖からは変化に富み進化を担う子どもが生まれてくる。たとえば、変化した子どもがシステムの維持に堪えないような異端児であっても、もう一方が現状維持を担ってくれるから心配ない。もし、変化した子どもの方が素晴らしい性質を持っていれば、今度はその変化した性質を維持すればよいし、一方ではその素晴らしい性質をベースに、さらに変異した子孫を作る試みも可能になる。生命というシステムは、現状を確実に維持しながら、変化の可能性を探る巧妙さを合わせ持つことが、まさにそのDNAに刻まれているという訳である。

15

10

5

脚問

文脈を理解する上でポイントとなる部分は簡潔な脚問を通して確認。

1 「もう一方」とは何をさすか。



太平洋中央海嶺の熱水噴出孔

である。

性を生命に与える。「無駄」を生み出し、それを許容すること、それが生命の持つ優れた特性である。

だから、生命の継続を可能とした

戦略の本質は、通常イメージされている、適応的な進化のような一方

を向いたものではない。本当に大切

なことは、実はその環境下で生きる

ことには何の役にも立たない、「無

駄」な変異をランダムに起こし続け、

それを許容することなのである。単

純な話ではあるが、他の環境で有利

に働く変異は、現環境下では基本的

に「無駄」なのだ。それを許容して

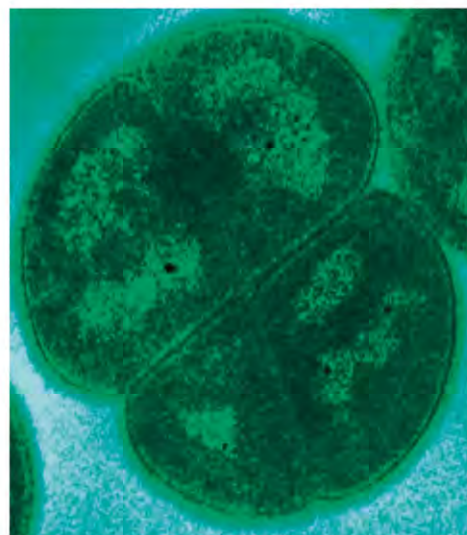
生み出し続けることが、現状とは違

う環境で生存できる新しい生き物を

生み出し、簡単には全滅しない強靱

②「それ」とは何をさすか。

③「簡単には全滅しない強靱性」とはどのようなことか。



Deinococcus radiodurans

一つの例を挙げてみよう。縁起でもない話ではあるが、もし核戦争が起こり地球上の放射線量がとてつもなく高くなれば、人類は滅亡することになる。一般的に、強い放射線は生物種を問わず致死的に働くので、人類のみならずすべての生物が死に絶え、地球が死の星となってしまう。そんなことも理屈の上では起こり得る一つの未来の姿である。しかし、恐らく実際にはそうならない。なぜなら世の中には「変な生き物」がいるからだ。たとえば⁸Deinococcus radioduransという微生物は、日本語に訳せば「放射線に耐える奇妙な果実」という、へんてこな名前がつけられており、人間の致死量の一〇〇〇倍近い放射線に曝されても平気で生きている。この種の細菌は、たとえば小川や草原といったごくごく普通の環境で見つかり、特に放射線量が高い場所に棲んでいるということもなく、どうしてそんなに放射線に強いのかよく分かっていない。そんな性質を持つて

5

10

15

⑧ Deinococcus radiodurans 極限環境微生物で、放射線のほかにも高温・低温・乾燥・低圧力・酸・強アルカリの環境下にも耐えられる。Deinococcusが「奇妙な」、radioduransが「放射線に耐える」を意味する。「ラテン語」

〈戦略〉〈許容〉〈強靱〉〈致死〉

*縁起でもない

重要語句

覚えておきたい熟語や成句・慣用句は見開きごとに整理。

言語活動

教材を手掛かりにして、教室で実践できる「言語活動」を掲示しました。

言語活動

- ① 図1（四四ページ）を参照しながら、DNA複製について本文に書かれていることを、筆者の用いたキーワードを使って説明してみよう。
- ② 筆者が「無駄」（四六・七）という言葉で「」でくくっているのはなぜか、話し合ってみよう。
- ③ 本文におけるキーセンテンスをノートに書き出し、周囲の人と見せ合って確認してみよう。

課題

教材冒頭の「視点」に対応して、各教材を通じて身につけたい課題を示しました。

読む

学習

学習の手引き

「課題」「言語活動」「確認」「重要漢字」で構成しました。

〈課題〉筆者のキーワードを抜き出そう

筆者は、文中で「生命」「無駄」「変な生き物」「変異」など、鍵となる語句に「」をつけて用いているが、とりわけ「無駄」は繰り返し強調されている。このように、文中で特に重要な意味を与えられた語を「キーワード」と呼ぶ。キーワードに注意を払うことが、正確な読み取りには必要である。また、キーワードを押さえる際は、筆者がそのキーワードを用いて最も強く主張しようとしている一文（キーセンテンス）も合わせて把握できるようにしよう。

確認

1. 「不均衡進化論」（四三・一）とあるが、どのような点を「不均衡」と言っているのか、説明しなさい。
2. 「生命の持つ根源的な矛盾」（四四・二）とはどのようなことか、説明しなさい。
3. もし「熱水噴出孔にあるエネルギーと資源に頼りつきの生き物」（四五・12）がいたとしたら、どのような運命をたどると考えられるか、説明しなさい。
4. 「生命の持つ優れた特性」（四六・16）とは何か、説明しなさい。

【重要漢字】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 43 衡（平衡） | 44 堪（堪忍） | 45 噴（噴火） |
| 45 孔（気孔） | 45 駄（駄作） | 45 削（掘削） |
| 45 適（適切） | 47 菌（菌糸） | 48 罵（罵倒） |

重要漢字

本文中の常用漢字から、学ぶべき漢字を選び、本文中の使われ方以外の熟語を示しました。

確認

教材の理解に役立つポイントを、問いの形式で示しました。

主な著書

著者紹介の末尾には、より深く学びたい生徒のために、著者の代表的著作を紹介して、読書活動に配慮しました。



中屋敷 均 一九六四（昭和三九）年。生物学者。福岡県に生まれた。ウイルスなど染色体外の遺伝子の研究をしながら、生命とは何か、科学とは何かを問うている。この文章は二〇一九年刊行の『科学と非科学』に収められており、本文は同書によった。

◆主な著書 『生命のからくり』『ウイルスは生きている』など。

いることは、人間が実験をして初めて分かったことである。一般的な微生物は放射線に弱いので、これはD. radioduransに起こった「変異」の一つと考えることができると思うが、普通の生物より放射線に一〇〇〇倍強いという能力が活かされる機会など、現実には訪れない可能性もあるだろうし、まったく「無駄」な性質を備えているようにも見える。しかし、そんな変な生き物がいることで、たとえ人類が核戦争という愚かな間違いを犯し滅んだとしても、「生命」という現象自体は、この地球上で恐らく途切れることなく続いていくことになる。

だから、このような生物の多様性を生み出す「変異」は、自己複製を担う保守的な「システム」と両輪を成し、生命の存続を支えている大切な要素となっているのである。そして「変異」は「無駄」と罵られようが、「システム」の論理から独立し、ランダムで特定の方向性を持たないことが、その本質として重要なのである。

4 「生命という現象」自体は、この地球上で恐らく途切れることなく続いていく」とはどのようなことか。

〈多様性〉

* 両輪を成す

●おすすめの教材②

教科書初収録教材。話題作『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』から、
実体験を伝える文章ながら、まるで小説のように生き生きとした世界が眼前に広がる、
みごとに表現力に注目。(第5章「話し合い」から「議論」へ)

誰かの靴を履いてみることに

ブレイディみかこ

〈視点〉筆者が語る英国の
ボランティアの情景は生
き生きとしている。その
鮮やかな語り口の秘密を
考えてみよう。

三月になって大雪が降るという年がたまにあるが、二〇
一八年の英国はまさにそうだった。

雪が降ると英国では様々なものがストップする。電車、
バスなどの交通機関が止まるほか、スノータイヤをつけて
走るなどという習慣もないため、雪が積もり出すとそこら
へんに車を停めて徒歩で帰宅する人などいて、²ブライト
ンのような坂道の多い街は、道の両側に誰のものとも知れ
ない車がずらっと乗り捨ててあるという状況になる。

保育園、学校、大学なども休みになり、³中学校からも朝
いちばんで休校を知らせる携帯メールが入った。丘の斜面
にあるうちの周囲などもあたり一面雪に覆われ、こりゃ餌
を置いといてやらないとジャングル状態のうちの庭に集う
鳥のみなさんが飢えるなど思いながら、朝から裏庭で餌置
き作業に追われていると、携帯に友人から電話がかかって

きた。

この友人は、⁴託児所が一昨年に潰れるまで一緒に働いて
いたイラン人女性であり、いまはホームレス支援団体が運
営している託児所の責任者として働いている。電話に出て
みれば、どうやらホームレス支援団体の事務所と倉庫を緊
急開放して路上生活者の人々を受け入れているそうで、食
料を買い出しに行く予定だった車が雪で立ち往生したため、
事務所から徒歩で行ける距離に住んでいる人々から食料の
カンパを募っているという。聞けばボランティアも不足し
ているようだし、学校が休みになって家でだらだらしてい
る息子を手伝いに行くことにした。

長靴で積もったばかりの白い雪をさくさく踏みしめ、テ
ィーバッグやサンドウィッチ用の食パン、ビスケット、缶
詰のベイクドビーンズ、ポテトチップス、ハムなどを詰め

linkマーク

linkマークのある教材は、インターネット上に参考資料があり
ます。教科書「凡例」ページのQRコードもしくはURLを開くと、
小社ホームページの「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料
へのリンクが掲載されています。

現代の国語



たバッグを息子と二つずつ下げて友人の待つ慈善団体の事
務所に向かった。現地に到着すると、事務所のドアから若
いボランティアの男性がちょうど出て来るところだった。
彼は、わたしたちの姿を見ると「ありがとう。君たちは⁷
ライフセイバーだ。」と言って、息子が重そうに抱えていた
バッグを受け取って運んでくれた。事務所の中にはわたし
たちと同じように食料を運んできた近所の人や、ボランテ
ィアの人々がいて、すでに忙しそうに立ち働いている。
「サンクス！ 助かるよ、こんなにティーバッグ持ってい
てくれて。パトロール隊が紅茶作って出て行くこうにもテ
ィーバッグが残りわずかなって焦っていたのよ。」
わたしの友人もキッチンから顔を出して勢いよくそう言
った。



事務所の中には路上生活者の人々が四人ばかり、敷物を
敷いて寝転んだり、座ったりしていた。息子は⁸おすおすと
した様子で、目が合った人に「ハロー」と挨拶したりして

1 スノータイヤ 滑り止めの深い溝をつけた雪道用のタイヤ。【英語】snow tire 2 ブライトン イングランド南東部の都市。筆者が住んでいる町。 3 中学校 筆者の住むすぐ近くにある中学校で、息子が通っている。 4 託児所 筆者が保育士として勤めていた託児所。 5 ホームレス 住居を持たず、公園や路上などの生活を余儀なくされている人々。【英語】homeless 6 カンパ 政治的・社会的活動のため、大衆に呼びかけて行う募金活動。また、そこで集めた金銭。語源はロシア語のkampaiiya フライフセイバー 日本では「水難救助員」をさすが、ここでは一般的に「人命救助員」をさす。【英語】lifesaver

図版

教材理解を助ける地図などの図版を適宜掲載しました。

（慈善）
*おすおすと

●おすすめの教材③

教科書初収録教材。基礎的「贈与論」。生徒にとって身近な話題を、評論の文脈にのせると、もの見え方はどのように変わるのか。「論じる」ということの驚きを味わえる好評論。〈第3章 ことばで伝える思いと考え〉

贈り物と商品の違い

まつむらけいいちろう
松村圭一郎

店で商品を購入するとき、金銭との交換が行われる。でも、バレンタインデーにチョコレートを贈るときには、その対価が支払われることはない。好きな人に思い切って、「これ受けとってください。」とチョコレートを渡したとき、「え？ いくらだったの？」と財布からお金をとり出されたりしたら、たいへんな屈辱になる。

贈り物をもらう側も、その場では対価を払わずに受けとることが求められる。このチョコレートを「渡す／受けとる」という行為は贈与であって、売買のような商品交換ではない。だから「経済」とは考えられない。

では、ホワイトデーにクッキーのお返しがあるとき、それは「交換」になるのだろうか。この行為も、ふつうは贈与への「返礼」として、商品交換から区別される。たとえばほとんど等価のものがやりとりされていても、それは売買とは違う。そう考えられている。

商品交換と贈与を区別しているものはなにか？

フランスの社会学者ピエール・ブルデュは、その区別をつくりだしているのは、モノ

〈視点〉本文に多く見られる「経済」「交換」「返礼」「時間」など、一般的なことばにカギカッコを付ける表現の効果について考えてみよう。

1 バレンタインデー 二月一日。この日に、友人や恋人同士でカードを交換したり、贈り物をしたりする習慣がある。もとは、ローマ時代のキリスト教殉教者ウァレンチヌスの祝日。「英語」St. Valentine's day

2 ホワイトデー 三月十四日。一般的に、バレンタインデーにチョコレートをもらった男性が、女性にお返しのプレゼントを贈る日とされる。

3 ピエール・ブルデュ Pierre Bourdieu 一九三〇—二〇二二年。フランスの社会学者・哲学者。

●おすすめの教材④

安定の「言語論」。ソシュールが説いた言語の仕組みを、わかりやすく説明します。〈第2章 評論文への招待〉

ことばとは何か

うちだ たつる
内田 樹

ソシュール¹の言語学が構造主義にもたらしたもつとも重要な知見を一つだけ挙げるなら、それは「ことばとは、『ものの名前』ではない。」ということになるでしょう。ギリシャ以来の伝統的な言語観によれば、ことばとは「ものの名前」です。その典型的な例は『聖書』に見ることができます。

神である主が、土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥をかたちづくられたとき、それにどんな名を彼がつけるかを見るために、人のところに連れて来られた。人が、生き物につける名は、みな、それがその名となった。こうして、人は、すべての家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名をつけた。

（『創世記』二章十九—二十節）

アダムの前に野の獣が連れて来られます。それを見て、アダムは「じゃ、これは牛、これは馬、これは犬。」というふうに名前をつけてゆきます。

まず「もの」があり、ただ名前がついていないだけなので、人間がこちらのついで、

〈視点〉「ことば」という抽象的な概念を筆者はどう説明しているだろうか。抽象的なことがらをわかりやすく伝えるための技法を読み取ろう。

1 ソシュール Ferdinand de Saussure 一八五七—一九一三年。スイスの言語学者。



2 構造主義 一九六〇年代にフランスで生まれた思想。人間を主体として特別視するのではなく、人間の意識や行動の背後にある非歴史的な構造（関係のシステム）から世界を捉えようとする方法の総称のこと。

●おすすめの教材⑤

「サイエンス」と「アート」。一見、二項対立のようではあるが、出発点は同じである、という筆者の指摘から、新しい視点について説得力を持って伝える評論の手法を学びます。
〈第1章 問うこと、語ること〉

サイエンスの視点、アートの視点

さいとうあや
齋藤亜矢

〈視点〉どんな時、どんなことから問いは生まれるのだろうか。問いを生み出すところのあり方を考えてみよう。

サイエンスとアート²。相反する点は、いくらでもあげられる。たとえば、普遍性と偶然性。サイエンスの実験では、条件をそろえれば毎回同じ結果になることが求められる。データは平均化され、一回きりの出来事は「外れ値³」として扱われる。しかしアートでは、偶然性がだいじにされ、平均値よりも「外れ値」にこそ光があてられることが多い。

たとえば、「わたし」の存在。サイエンスの論文では、「思う」より「考えられる」という表現が好まれる。だれが考えてもそう解釈できる無理のない論理だという意味だ。つまりサイエンスは、できる限り「わたし」を排除する。いっぽうでアートは、むしろ「わたし」がなければはじまらない。「わたし」がこう思う、「わたし」はこう感じる。ほかのだれもが気づかなかった「わたし」の「思う」や「感じる」を切り出して表現する。解釈も鑑賞者によって異なり、そこに一つの正解があるわけではない。

もはや一八〇度違う部分も多いのだけど、サイエンスとアートは対極に位置するわけではない。むしろ、その根っこにこそ共通するものがある。

- 1 サイエンス 科学。「英語」 science
- 2 アート 芸術。「英語」 art
- 3 外れ値 統計学で、得られたデータのうち、他の値から大きく異なる数値のこと。

II 「できる限り『わたし』を排除する」とはどのようなことか。

●評論読解のポイント

「第2章 評論文への招待」の末尾では、評論読解のポイントを詳しく説明しました。

評論読解のポイント

I 「ことば」と向き合おう

評論とは、筆者がある問題についての自分の主張を論理的に述べた文章をさす。よって、筆者の論理の道すじを正しく見定めることが、評論読解の目標となる。まずは、一つ一つの文の意味を的確に押さえることを大切にしよう。

語句の意味がわかれば、文を理解できるとは限らない。主・述の関係や修飾・被修飾の関係など、文の組み立てを意識しながら読む習慣を身につけよう。語句の意味は、前後の文脈（コンテキスト）によっても変化するので、複数の意味を持つ語句は、どの意味で使われているのかも確認する。段落には、形式上で区別する形式段落と、内容で区別する意味段落があるが、読解の際には特に意味段落に注意する。文同士、段落同士の関係を知るためには接続語に注目する。主な接続語の種類とその働きについては、覚えておこう。また、指示語が出てきた時は何を指しているのかを確認する。直前の語句や文だけでなく、段落全体を指す場合もあるので注意しよう。

段落の冒頭に、逆接の接続語（だが・しかし・けれども）や換言の接続語（つまり・すなわち）がある場合は、文章の展開に関わることが多いので、特に注意したい。

単語・文節・文の関係

単語	形容詞 名詞 助詞 副詞	形容動詞 動詞 助動詞
文	赤い夕日がとても	きれいに見えた。
文節	修飾語 被修飾語	修飾語 被修飾語

●主な接続語の例

順接	そして・だから・ゆえに・したがって
逆接	だが・しかし・けれども・ところが・とはいえ
添加	しかも・それに・そのうえ・さらに・くわえて
理由	なぜなら・というのは
並列	また・および・かつ・ならびに・あわせて
選択	または・もしくは・それとも・ないし・あるいは
補足	ただし・もともと・なお
換言	つまり・すなわち・いいかえれば
譲歩	確かに・もちろん・なるほど
列挙	まず・次に・第一に・第二に・最後に

●実践①

すべての単元の末尾に、「話す・聞く」「書く」「読む」「三領域のアクティブ・ラーニング例として、「実践」を掲載。「主体的・対話的で深い学び」に役立ちます。
具体的な手順を「レッスン」や「活動例」「発展」として示しました。



実践…宣伝のことは——ポップ・広告

すぐれた広告やポスターには、見る者を引きつけるために、さまざまな表現の工夫が凝らされている。実際の例に学びながら、自由にアイデアをふくらませてみよう。

レッスン

好きな本の広告を作ってみよう

- ① 必要な情報を整理する——その本やマンガについてアピールしたい事柄を、箇条書きなどのできるだけ多く書き出してみよう。
- ② 効果的なキャッチコピーを考える——①の内容を簡潔で力強い言いまわしで表現してみよう。
- ③ デザインやレイアウトを工夫する——イメージに合わせた写真やイラストを使ったり、文字の書体や配置などを工夫したりすることで、受け手の印象に残るデザインを考えてみよう。

つたものを集め、どんな表現の工夫がなされているか、話し合ってみよう。

・キャッチコピーを考える際には、対比（「古くて新しい」）やリズム（「安、近、短」）など、つい口に出したくなる表現を使うと効果的である。

・写真やイラストを用いる際には、著作権などの権利を侵害しないよう注意しよう。

・できあがった広告について、実態とあまりにかけ離れた内容になっていないか、多くの人の目に触れる表現として問題がないか、確認しておこう。

・学校図書館と協力して、できあがった広告と本とを組み合わせる展示会を開いてもよいだろう。

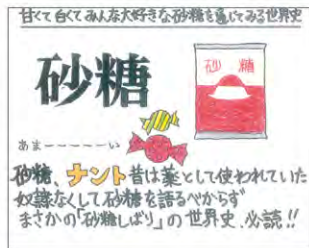
活動例



「雑草はなぜそこに生えているのか」(稲垣栄洋)



「友だち幻想」(菅野 仁)



「砂糖の世界史」(川北 稔)



「何のために学ぶのか」(桐光学園編)

【参考】街の書店などでは、イラストなどを組み合わせたカラフルな手作りのポップ広告がよく見られる。作成者の個性が伝わる親しみやすい表現に注目してみよう。

3/8は国際女性デー 友だちへ、家族へ、パートナーへ、この物語を贈ろう

10代から60代まで反響の音が殺到！「これは、私の物語だ」

「3/8は国際女性デー」を機に、世界中の女性たちが自分たちの物語を語り始める。この物語は、女性たちが生きてきた歴史、文化、価値観、そして未来への希望を描く。この物語は、女性たちが生きてきた歴史、文化、価値観、そして未来への希望を描く。この物語は、女性たちが生きてきた歴史、文化、価値観、そして未来への希望を描く。

【参考】文字だけでもインパクトのある広告を作ることができる。読者の感想を列挙し、物語に自分を重ねて共感した読者が数多くいたことを表現している。

活動例
本の「ポップ」は、実際に刊行された書籍をもとに高校生に募集して作られたものです。まさに実用的な実践です。

高校生や読者から寄せられたコメントをもとに筑摩書房が実際に書店店頭用に作成したパネルです。

●実践②

「読む」の「実践」では、教科書掲載の教材を用いて、具体的な手順を示しています。アクティブ・ラーニング例としての「実践」を通して「読む」力をより鍛錬できます。

読む

実践…対比の働きを理解しよう

複眼的な視点を獲得するための第一歩は自己の視点を相対化することである。そのためには他者の視点に立つことが必要だ。さまざまな文章を読み、対比すること、その主張だけでなくその背後にある思考の枠組みを踏まえ、視点の違いを捉えよう。

レッスン

対比の構造を捉える

論の構造にはさまざまなパターンがあるが、その中でも重要なものが「対比」である。さまざまな文章を読み、それぞれにおける対比の構造を捉えてみよう。

- ① この教科書の中から対比が用いられている文章を探し、何と何が対比されているか、確認しよう。
- ② その対比がどのような観点にもとづいているのか、表を用いて整理しよう。
- ③ 対比することで明らかにになったことをまとめてみよう。

活動例

【贅沢の条件】（176ページ）

対比の観点	物語	情報
時間の流れ	手仕事の時間	機械的時間
メディアの特性①	権威	親近感
メディアの特性②	「はるけさ」「遠さ」	「近さ」「速さ」
メディアの与えるもの	身体的経験から来る知恵	経験的な知恵にならない知識
贅沢の条件	「退屈な時」「長い時」	「マネーとタイムが刻む社会の時」
筆者の主張	本当に「贅沢」な時間とは <input type="text"/> 。 一方、「情報」は <input type="text"/> 。	

発展

二つの文章を対比する

「過去はどこに行っちゃったの？」という問いに答える形で書かれた二つの文章（二三八ページ）を読み比べてみよう。

- ① それぞれの文章に題名をつけてみよう。
- ② それぞれの文章の過去についての考え方をまとめてみよう。
- ③ 二つの文章の違いが主眼とした理由について話し合ってみよう。

自

思考

過去はどこに行っちゃったの？

野家啓一・永井均

皆さんは昨日のランチは何を食べましたか？ 私は学生食堂で辛味噌ラーメンを食べました。もちろん、昨日のラーメンですから、すでに私の胃袋で消化されて、今は跡形もありません。

それでも、手に取った箸の熱さ、舌を刺す辛味噌の味、などを思い出すことができます。しかし、思い出されたラーメンの器は熱くも冷たくもなく、辛味噌の味は辛くも甘くもありません。私は昨日のラーメンを思い出したのであって、知覚したわけではないからです。そもそも、食後の満腹感を感じ出すたびに満腹になるのでしたら、食後は安上りになるに違いありません。

そこから、思い出しているラーメンは、昨日知覚したラーメンの二次的な記憶像、すなわちコピーだという考えが頭をもたげます。しかし、いくらがんばっても記憶像のほかに本物昨日のラーメンを思い出して両者を比べることはできません。ものの「本物」と比較できないければ、「像」や「コピー」という概念は意味を失います。だとすれば、想起されたのは「像」ではなく「本物」の昨日のラーメンと云うのはありません。

すると、昨日のラーメンは、私の記憶の中にあるのでしょいか。しかし、私自身ですから、記憶違いということがあるにありえます。食堂で同席していた学生のA君が「先生が食べていたのはラーメンではなくカレーライスでした」と言っただけでどうでしょう。

私は自分の記憶に自信がなくなり、ポケットをまさぐって昨日のレシートを探します。うまく見つかり、そこに

題名	I	II
過去についての考え方		



それぞれの筆者が「過去」や「記憶」について述べていることを整理して考えてみようか。



「I」の文章と「II」の文章の違いはどこにあるんだろう。

●コラム

グラフの読みとりなど、『現代の国語』を学ぶ上で欠かせない知識は、豊富な図版とともにコラムで説明しています。

グラフその歴史

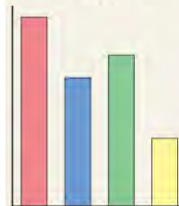
「グラフ」(統計グラフ)とは、膨大なデータを一目でわかる形に整理した図解である。

主張や分析の説得力を高める資料として、各メディアで目にしない日はないと言ってもいいグラフだが、その歴史は意外にも浅い。私たちが日頃目にするグラフを考案したのは、わずか二〇〇年ほど前のイギリスの経済学者、ウィリアム・プレイフェア(一七五九―一八二三年)である。プレイフェアは代表的なグラフである「棒グラフ」「折れ線グラフ」「円グラフ」のすべてを発明し、「グラフ」という概念の創始者とされる。

いくつもの職業を転々とし、波瀾万丈の人生を過ごしたと言われるプレイフェアは、無名のままその生涯を終えたが、彼が「情報伝達の短縮化と円滑化」(『商業的・政治的地図帳』一七八六年、未邦訳)のために考案したグラフは、ほとんど形を変えることなく、現在も使用されている。各グラフの特徴や機能を確認してみよう。グラフを効果的に用いれば、読み手に情報を分かりやすく伝えることができる。一方、グラフの表示を特定の方向に読み取りやすくなるよう操作されたグラフもある。そのようなグラフにだまされないためにも、グラフが示した数値等の客観的事実を理解することが大切だ。

◆さまざまなグラフの特徴を理解しよう

棒グラフ 棒の高低でデータの大小を示す。比較の表現に適している。



折れ線グラフ 横軸に主として時間を、縦軸にデータ量を取り、それぞれのデータを折れ線で結ぶ。量がどのように変化するかを明示できる。



円グラフ 円に占める角度によって、データ全体の内訳を簡潔に示す。



帯グラフ 同じ長さの棒を並べ、それぞれの構成比を比較する。棒グラフと円グラフの特徴を兼ね備える。



図版資料

大学入試で注目のグラフの読み取りにも配慮しています。

●読書案内

「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれの領域について、より深く学ぶために役立つ書籍を紹介しました。

読書案内

話す・聞く

この場で重なることばと声

話すことと聞くことは、肉体を使ったりリアルタイムのことばの応酬だ。相手に届くようにことばを発しているか。そのことばを受け入れるために心と体を開いているか。対話の場ならではの奥行きに注目しよう。



『対話のレッスン 日本人のためのコミュニケーション術』(平田オリザ) 劇作家・演出家として知られる著者による、具体例豊富なコミュニケーション論。

議論入門

負けたくないための5つの技術

『議論入門——負けたくないための5つの技術』(香西秀信) 定義、類似、譬え、比較、因果関係。議論に必要な技術を、具体例を示しながら紹介する。



『からだことばのレッスン』(竹内敏晴) 普段あまり意識しない声の出し方や聞き方の身体性を目覚めさせる種々のレッスンが紹介されている。



『手話の世界を訪ねよう』(亀井伸孝) 音のない世界で音声言語を習得するのは難しいが、そこには手話という視覚言語の豊かな世界がある。優れた入門書。



『僕らの世界を作りかえる哲学の授業』(土屋陽介) 素朴な疑問についてみんなで語り合っ思考を深める「哲学対話」。その事例と方法のガイド。



『戦争は女の顔をしていない』(スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ・三浦みどり訳) 第二次大戦で従軍した女性たちの語りから戦争の真実を描き出すインタビュー集。



『東京プリズン』(赤坂真理) アメリカの高校に留学した体験から、戦後日本の歪みを暴いた思索の書。伝え難い辛い体験にこそ語る価値のある材料が眠っていることに気づかされる。

言語文化

基礎を固める定番教材を中心に
言語文化の本質に迫るバラエティ豊かなラインナップ。



青山学院大学 高田祐彦

編集委員のことば

教材本位——それが新学習指導要領のもとでも変わることのない私たちの方針である。一つ一つの教材を深く読み込むこそが、国語の力を育てる核となると信じるからである。古文は、さまざまなジャンルの教材によって古典の世界の豊かさを味わうとともに、文学史的確かな把握ができるように努めた。漢文は、親しみやすい教材を多くとりあげ、日本の言語文化にとって重要な漢文の世界を身近に感じられるようにした。いずれも、「国語総合」で支持を受けてきた定番教材と単元構成を十分に生かしながら編成して、生徒が古典の言葉とじっくり向きあうところから新たな世界が開けるような教科書づくりを目指した。また、古文と漢文、古典と現代文との間にも連絡を図り、「言語文化」という科目全体への目配りも怠っていない。新学習指導要領への対応にも種々工夫を凝らしたが、教材そのものを大切にする基本を堅持しつつ、安心して使っていただける教科書になっているはずである。



日本大学 紅野謙介

いまから一五〇年ほど前、日本は近代国家に生まれ変わったが、言葉は今よりもっとばらばらで、互いに通じ合うことがなかった。話し言葉には方言もたくさんあったし、もっと複雑だった。書き言葉では、漢文を公式の文章語にしている人もいれば、候文を日常的に使っている人もいた。そもそもまだ文字を知らない人もいた。それが夏目漱石や樋口一葉の時代であった。今の言葉に近づいてくるのは一九二〇年頃のこと。さらに多くの人々が使いこなせるようになったのは、戦後のことなのである。言葉にはこうした錯綜の歴史がある。その歴史と文化を学ぶことを通して、私たちは言葉が変化するものだということを学ぶ。そう、言葉はつねに変化する。最終形はまだない。だからこそ、歴史や文化を知る必要がある。目に見えない未来の言葉は、過去と現在を接続することから生まれるのである。

言語文化（言文712） 編集のポイント

- 古典（古文・漢文）は、定番教材を中心に据えて基本を重視しました。
- 現代文は、言語文化の本質に迫る教材を厳選しました。

《教材の特徴》

- ①古文教材は、散文25本、韻文6本。漢文教材は、散文14本、韻文10本。現代文教材は、散文7本（小説3本・随想4本）、韻文6本。
- ②入門教材は丁寧な解説。（古文入門・漢文入門）
- ③古典から現代への流れを自然に理解できるよう、古典編から現代文編への橋渡しとなる「日本語の変遷」という章を置きました。

《授業を支える工夫》

- ①古文編・漢文編・現代文編と、授業を展開しやすい三編で構成しました。
- ②学びの見通しを立てるために役立つ「単元の目標」と教材ごとの「視点」を提示。
- ③言語文化をよりよく理解するためのアクティブ・ラーニング例として、「実践」をすべての単元の末尾に掲載。
- ④古文・漢文の理解に役立つコラム（古典文法の窓・訓読のきまり・送り仮名のきまりなど）や、付録（古語の理解・漢文句法一覽）が充実。
- ⑤付録に「装束」「調度」「中国の文化」「暦法」など、授業で使えるカラー図版を掲載。

言語文化 編集委員

安藤 宏	東京大学
井島正博	東京大学
大橋賢一	北海道教育大学旭川校
紅野謙介	日本大学
五味渕典嗣	早稲田大学
坂口浩一	東京都立小山台高等学校
清水良典	愛知淑徳大学
関口隆一	筑波大学附属駒場中・高等学校
高田祐彦	青山学院大学
橘 直弥	灘中学校・高等学校
千野浩一	筑波大学附属駒場中・高等学校
仲島ひとみ	国際基督教大学高等学校
三上英司	山形大学
吉田 光	東京都立竹早高等学校
吉田幹生	成蹊大学

言語文化・古文編

目次

● 古文教材は、散文25本、韻文6本(俳諧含む)
● スタンダードな教材をバランスよく配列。

新言葉の力 大岡 信……11

目次 古文

第1章 古文への扉 古文入門 読……17

古文を学ぶために……18

児のそら寝 宇治拾遺物語……19

古典文法の窓1 歴史的仮名遣い……22

新 大納言顕雅卿 十訓抄……24

古典文法の窓2 品詞の分類……26

絵仏師良秀 宇治拾遺物語……27

大江山 十訓抄……30

古典文法の窓3 用言の活用/音便……32

実践 「構成」を意識して作品への理解を
深めよう……34

傍訳つきで丁寧な導入。

古文の理解を深めるコラム。

比べ読みに最適な【参考】教材。

第4章 ことばに表れる意思 随想を読む(古文) 読……71

徒然草 つれづれなるままに……72

丹波に出雲といふ所あり……73

ある人、弓射ることを習ふに……75

名を聞くより、やがて面影は……77

花は盛りに……78

【参考】兼好法師が詞のあげつらひ(玉勝間)……81

方丈記 ゆく河の流れ……82/【参考】歎逝賦……84

仮の庵……85

古典文法の窓6 助詞……87

実践 筆者のものの見方を理解しよう……88

第5章 転換期の文体と行動 軍記を読む 読……89

平家物語 木曾の最期……90

古典文法の窓7 敬語法……97

転換期の文学——『平家物語』の魅力 兵藤裕己……98

和漢混交文と漢字仮名交じり文……105

実践 体験を通して古典文化の理解を深めよう……106

第2章 人間の普遍的な姿 物語を読む 読……35

竹取物語 かぐや姫誕生……36

かぐや姫の昇天……39

伊勢物語 芥川……45/東下り……47

筒井筒……50/梓弓……53

古典文法の窓4 係り結びの法則/「ば」の用法……55

実践 当時の文化に注目しよう……56

第3章 自分という他者 日記を読む 読……57

土佐日記 門出……58

亡き児をしのぶ……60

帰京……61

更級日記 東路の道の果て……64

新 をかしげなる猫……66

古典文法の窓5 助動詞……68

実践 一人称で語ってみよう……70

古文の理解を深めるアクティブ・ラーニング例としての「実践」。

第6章 韻文の表現(一)

和歌・俳諧を鑑賞する 読……107

和歌 万葉集……108/古今和歌集……112

新古今和歌集……116

奥の細道 序……119/白河の関……121

立石寺……122

古典文法の窓8 和歌・俳諧の修辞……124

実践 鑑賞する力を磨こう……126

第7章 練り上げられた思考 評論を読む 読……127

新 正徹物語 待つ恋……128

玉勝間 いにしへよりも後世のまされること……130

古典文法の窓9 まぎらわしい語の区別……132

実践 小論文を書いて、古文の魅力を確認しよう……133

読書案内(古典編)……134

言語文化・漢文編

目次

● 漢文教材は、散文14本、韻文10本
● スタンダードな教材をバランスよく配列。

目次：漢文

第8章 漢文への扉 漢文入門 読む 135

● 漢文を学ぶために…… 136

● 主な助字(置き字)・返読文字・再読文字…… 144

● 送り仮名のきまり…… 148

新 憲法十七条 日本書紀…… 150

実践 「書き下し」という手法で、

ことばの構造を考えよう…… 152

漢文を学ぶ意義や、訓読の
きまりを丁寧に解説。

第9章 漢語の特色 故事成語を読む 読む 153

新 守_レ株 韓非子…… 154

推敲 唐詩紀事…… 155

借_二虎威_一 戦国策…… 156

漁父之利 戦国策…… 158

塞翁馬 淮南子…… 160

実践 ことばが創られる過程に触れよう…… 162

比べ読みに最適な
【参考】教材。

第11章 韻文の表現(二) 唐詩を翻案する 書 177

登_二鶴鵲樓_一 王之渙…… 178

鹿柴 王維…… 178

秋風引 劉禹錫…… 179

江雪 柳宗元…… 179

涼州詞 王翰…… 180

望_二廬山瀑布_一 李白…… 180

江南春 杜牧…… 180

漢文学習に必要な知識。

● 漢詩のきまり1…… 181

過_二故人莊_一 孟浩然…… 182

登_二岳陽樓_一 杜甫…… 182

香炉峰下、新卜_二山居_一、

草堂初成、偶_二題_二東壁_一 白居易…… 183

● 漢詩のきまり2…… 185

実践 翻案を通じて、自分の思いを伝えよう…… 187

● 【参考】雪のいと高う降りたるを(枕草子)…… 186

第10章 言動に表れる人間の本質 史伝を読む 読む 163

管鮑之交 十八史略…… 164

刺客荊軻 十八史略…… 167

死諸葛走_二生仲達_一 十八史略…… 171

新 那須宗高 日本外史…… 174

新 【参考】那須与一一家物語…… 175

実践 記録から人物像を具体的に把握しよう…… 176

同じ故事成語を二つの出典で
比べ読み。新しい試みです。

第12章 読みつがれることば 中国古典思想を読む 読む 189

論語 孔子の説く「知」と「政」…… 190

老子 老子の説く「知」と「政」…… 195

朝_二三暮四_一(二編) 列子・莊子…… 198

雑説 唐宋八家文読本 韓愈…… 200

実践 表現の特徴を読み取ろう…… 202

漢文を身近なものとするアクティブ・ラーニング例としての「実践」。



言語文化・現代文編

目次

- 現代文教材は、小説3本、随想4本、詩6本と短歌・俳句で構成。
- 定番から新教材までバラエティ豊かな教材をセレクト。

目次：現代文

第13章 日本語の変遷 近代語の成立を知る 203

近代語の成立……204

新 余が言文一致の由来 二葉亭四迷……208

実践 「話しことば」と「書きことば」の違いを意識してみよう……212

第14章 想像力がひろく世界 小説を読む 213

定番 羅生門 芥川龍之介……214

【参考】羅城門の上層に登りて

死人を見る盗人の語(今昔物語集)……226

定番 夢十夜 夏目漱石……227

【参考】胡蝶之夢 莊子……236

準定番 待ち伏せ ティム・オブライエン 村上春樹訳……237

【参考】Ambush(抜粋) Tim O'Brien……245

実践 原典と小説を読み比べて、表現の違いについて考えてみよう……246

古語から近代語への変遷についての理解を助ける章を設けました。

翻訳文学には原文を一部掲載。読み比べて翻訳文学への理解を深めます。

第15章 多彩な表現とイメージ 随想を読む(現代) 247

新 なぜ日本語で書くのか リービ英雄……248

虹の雌雄 蜂飼 耳……254

定番 失われた両腕 清岡卓行……259

新 物語る声を求めて 津島佑子……265

実践 近現代の文章にはどのようなジャンルがあるのか調べよう……272

第16章 韻文の表現(三) 273

詩歌を作る……273

小諸なる古城のほとり 島崎藤村……274

竹 萩原朔太郎……276

樹下の二人 高村光太郎……277

二十億光年の孤独 谷川俊太郎……280

崖 石垣りん……282

I was born 吉野 弘……284

短歌……288

俳句……291

実践 詩歌を通して、表現力を磨こう……295

読書案内(現代文編)……296

カラー図版満載のミニ便覧。

◆付録

古典常識

装束……298

乗り物……299

住居・調度……300

新 中国の文化……301

暦法……302

古典文法要覧……304

古語の理解……308

日本文学史……312

中国文化史……316

新 主な漢文句法……318

教科書の特徴

●単元の扉

単元ごとに章扉をつけました。

●単元の目標：
古文に親しみ、古文の世界を味わう
古文の世界は、用いられていることは現代とは異なるが、さまざまな感覚や発見に満ちた豊かな世界である。そこには、異なる時代を生きた多くの人々の出会いがある。
まずは、古文の世界に慣れよう。描かれたできごとや人物の気持ちに即して、内容や展開を捉えてみる。ことばや生活、文化の違いなどにも目を向けよう。現代に通じつつ異なる面を持つ古文の世界から、新たな発見がもたらされるであろう。

第1章

古文への扉 古文入門

読む

古文を学ぶために……18
兄のそら寝 宇治拾遺物語……19
大納言頼雅卿 十訓抄……22
古典文法の窓1 歴史的仮名遣い……24
古典文法の窓2 品詞の分類……26

絵仏師良秀 宇治拾遺物語……27
大江山 十訓抄……30
古典文法の窓3 用字の活用 雪庵……32
【実践】「調成」を意識して作品への理解を深めよう……34

●単元の目標：
古典のことばから近代のことばに至る過程をたどる
私たちがおなじく何気なく使っている現代のことば、特にその「書きことば」は、何の努力もなく自然に成立したものではない。明治時代初期の「話しことば」と「書きことば」は、今の私たちに想像もつかないほど大きくかけ離れていた。明治政府は、開国にともなう西洋との接触をきっかけに、共通語の整備と「書きことば」を「話しことば」に近づける「言文一致」の必要に迫られたのである。そこには人々のこのような工夫や苦労があったのだろうか。
先人たちの工夫や、その時代的な背景をたどり、現代私たちが用いることばのありかたにも理解を深めよう。

第13章

日本語の変遷

近代語の成立を知る……読む

近代語の成立……204
余が言文一致の由来 二葉亭四迷……208
【実践】「話しことば」と「書きことば」の違いを意識してみよう……212

各単元の「目標」を章扉に提示しました。古文・漢文・現代文、それぞれ、単元ごとの学びの見通しに役立ちます。

単元の目標

●単元の目標：

漢文を読むためのきまりを理解する
日本人は文法構造が異なる「漢文」と「和文」を使い分けつつ、これらを融合させてきた。例えば、「登山」と「山登り」という語は、同じ意味だが語順が違う。「登山」は漢文、「山登り」は和文の語順となる。文字を持たなかった古代日本人は、漢字を採り入れ、古典中国語の文法に由来する表現を理解して使用し、自国の言語文化を発展させてきたのである。まずは「漢文」に親しみ、言語文化への関心や理解の幅を広げよう。

第8章

漢文への扉 漢文入門

読む

漢文を学ぶために……136
主な助字・副助詞・連語・再読助字……144
漢法十七条 日本書紀……150
【実践】「書き下し」という手法で、ことばの構造を考えよう……152

実践

単元ごとに「実践」を提示。単元で身につけるべき「資質・能力」を育成できます。

「資質・能力」アイコン

各単元で主に身につけたい「資質・能力」を示すアイコンを扉ごとに付けてあります。

●おすすめの教材（古文編①）

随想単元では、古典文法を整理するのに最適な『徒然草』を中心に掲載しました。（古文編 第4章 ことばに表れる意思 随想を読む（古文））

徒然草 つれづれぐさ

つれづれなるままに

視点

身につけたい資質・能力について、学びの見通しを立てやすくするため、すべての教材の冒頭につけました。

兼好 けんこう

奈良 710
平安 794
鎌倉 1185
南北朝 1333
室町 1467
戦国 1603
江戸 1868
明治

●視点 思考の多面性や柔軟性に注目しながら、作者の人間や自然に対する見方・感じ方を読み味わおう。

* つれづれなるままに、日くらし、すずりに向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

（序段）

1 よしなしごと これという意味もないこと。
* つれづれなり
* ものぐるほし
* あやし

重要古語

古文の重要語を本文中に*印で示し、見開きごとに整理しました。

年表

作品の書かれた時代を年表で分かりやすく示しました。

●学習の手引き
「理解」「表現」の二項目に分けて、本文の理解を助けます。

●理解 (1)本文中から、次の問いの答えに相当する部分を抜き出さない。

④文章を書くきっかけは何か。 ⑤何を書くのか。 ⑥どのような態度で書くのか。

●表現 (1)「書きつくれ」の活用形に注意して、「そこはかとなく書きつくれば」(七・二)を現代語に訳しなさい。

(2)形容詞「あやし」の活用をすべて書き出して、ウ音便形「あやしう」(七・二)のもの形を確認しなさい。

●おすすめの教材（古文編②）

古典を論じた現代の評論として、『平家物語』研究の第一人者による「平家物語論」を掲載。（古文編 第5章 転換期の文体と行動 軍記を読む）

転換期の文学——『平家物語』の魅力 兵藤裕己

『平家物語』の序章「祇園精舎」は、つぎのような有名な文章で語りだされます。

祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。猛き者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。遠く異朝をとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、梁の朱异、唐の禄山、これらは皆、旧主先皇の政にも従はず、樂しみをきはめ、いさめをも思ひ入れず、天下の乱れむことを悟らずして、民間の愁ふところを知らざつしかば、久しからずして、亡じにし者どもなり。近く本朝をうかがふに、承平の将門、天慶の純友、康和の義親、平治の信賴、これらはおごれる心も猛きことも、皆とりどりにこそありしかども、まぢかくは六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申しし人のありさま、伝

本文フォント

読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。

【視座】古典について述べた現代の文章を通して、現代まで読み継がれた背景を知り、古典への理解を深めよう。

- 1 祇園精舎 釈迦が説法したインドの寺。
- 2 娑羅双樹 釈迦入滅の時、床の四方にあった各一丈（二株）の娑羅の木が合して床を覆い、白に変わったという。
- 3 秦の趙高 ？—前二〇七年。始皇帝の臣。帝の没後、専横をきわめたが、後に討たれた。
- 4 漢の王莽 前四五—二三年。平帝を殺して帝位につくが、後に討たれた。
- 5 梁の朱异 四八三—五四九年。武帝の臣。帝に取り入って国政をほしいままにするが、国が乱れて自殺。
- 6 唐の禄山 安禄山、？—七五七年。玄宗皇帝の臣。帝と楊貴妃に愛されたが、後に乱を起こして討たれた。
- 7 将門 平将門、？—九四〇年。承平五（九三五）年、関東で乱を起こし、新皇と称したが、五年後に討たれた。

脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載。

●古典文法の窓1～9

「古典文法の窓」として、古典文法の知識をコンパクトにまとめました。

古典文法の窓 3 …… 用言の活用／音便

《活用・活用形》用言は用いられ方によって語形が変化する。その変化を活用といい、変化した形を活用形という。古語の活用形には、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の六種類がある。文中でどの活用形が用いられるかは、原則として下に続く語によって決まる。

古語の已然形（已にそうなっている意）は確定条件を表し、仮定条件を表す場合は未然形を用いた。しかし、時代が下ると已然形は次第に仮定条件を表すようになったため、口語文法では仮定形と呼ばれるようになった。

《語幹・活用語尾》活用するとき、変化しない部分を語幹、変化する部分を活用語尾という。「見る」「傳」などのように、語幹と活用語尾が融合した動詞もある。

《動詞の活用》動詞は、五十音図の行（ア行～ワ行）の一つの行の中で変化する。そして、ア～オ段のどの段を使って変化するかによって、四段活用・上一段活用・上二段活用・下一段活用・下二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用の九種類に分類される。

*カ変とサ変は、上二段と未然形・命令形が異なる。ナ変は、未然形・連用形・終止形・命令形は四段と、連体形・已然形は下二段と一致する。ラ変は、四段と終止形のみが異なる。

種類	語例	語幹	未然	連用	終止	連体	已然	命令
四段	思ふ	思	は	ひ	ふ	ふ	へ	へ
上一段	見る	（見）	み	み	みる	みる	みれ	みよ
上二段	過ぐ	（過）	ぎ	ぎ	ぐる	ぐる	ぐれ	ぎよ
下一段	蹴る	（蹴）	け	け	ける	ける	けれ	けよ
下二段	流る	（流）	れ	れ	る	る	るれ	れよ
カ変	来	（来）	こ	き	くる	くる	くれ	こよ
サ変	す	（す）	せ	し	く	くる	くれ	こよ
ナ変	死ぬ	死	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	せよ
ラ変	あり	あ	ら	り	り	る	れ	れ

《形容詞の活用》古語の形容詞の活用にはク活用とシク活用の二種類がある。なお、連用形にラ変動詞「あり」が融合して「―かり」となった形を補助活用（カリ活用）という。

種類	語例	語幹	未然	連用	終止	連体	已然	命令
ク活用	高し	高	く	かり	し	き	けれ	かれ
シク活用	美し	美	しく	しかり	し	しき	しけれ	しかれ

●おすすめの教材(漢文編①)

漢文読解のポイントが分かる、充実の工夫。

導入の章では、漢文を学ぶ意義や訓読のきまりについて、丁寧に解説しました。
 〈漢文編 第8章 漢文への扉 漢文入門〉

漢文を学ぶために

古代の日本人は、日本語で思いや考えを伝え合っていました。文字を発明する
 には至りませんでした。日本人が初めて出会った文字は、隣国である中国のことば
 (漢語)を表記するために作られた漢字でした。

漢語で書かれた書物が日本に伝わった当初、日本人はこれらを漢語で発音してい
 ました。例えば、次の一文を見てみましょう。

【原文】子曰学而時習之不亦説乎

これは、中国の古典、『論語』学而編の一節で、「先生がおっしゃった、学んで何
 度も繰り返し身につける、なんとうれしいことではないか。」という意味です。
 当初は、このような一節を、日本人も全て音読みしていたと考えられます。しか
 し、後世、直接意味が理解できるように、句読点を付けて文や内容の切り方をわか
 りやすくした上で、漢語を日本語に直接置き換えるようになりました。「学」には
 「まなぶ」、「時」には「とき」、「習」には「ならぶ」、「説」には「よろこばし」と



脚注

補説的事項は脚注欄にまとめました。

1 句読点 句点「。」と読点「、」。文や
 内容の区切りを示すために付ける。

【返り点】

返り点は、日本語として読むときに語順を変える必要がある場合に用います。次
 の漢文を、それぞれ返り点にしたがって語順を確認し、繰り返し音読しましょう。
 【返り点の種類】 主な返り点には、次のような種類があります。

① 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

② 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

③ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

④ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑤ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑥ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑦ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑧ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑨ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑩ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑪ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑫ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑬ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑭ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑮ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑯ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑰ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑱ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑲ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。

⑳ 返り点の種類 主な返り点には、次のような種類があります。



漢文入門

豊富に掲載した例文が、内容の理解を深めます。

句法のまとめ

重要な句法を本文中に*印で示し、
教材ごとに整理。

句法の
まとめ

- 理解 (1)「鷸」と「蚌」の会話の部分(二五八・七、一五九・一)を、書き下し文にしなさい。
- 表現 (1)「漁父の利」の意味を辞書で調べ、この故事成語を用いた短文を書きなさい。
- 句法のまとめ (1)「鷸」と「蚌」の会話の部分(二五八・七、一五九・一)を、書き下し文にしなさい。
- 表現 (1)「漁父の利」の意味を辞書で調べ、この故事成語を用いた短文を書きなさい。
- 句法のまとめ (1)「鷸」と「蚌」の会話の部分(二五八・七、一五九・一)を、書き下し文にしなさい。
- 表現 (1)「漁父の利」の意味を辞書で調べ、この故事成語を用いた短文を書きなさい。

戦国策 前漢の劉向編。戦国時代に各地を遊説して政策を説いた人々(縦横家)の言動や議論を国別に分類し、集めたもの。相手を説くための比喩や寓話が多く含まれている。

劉向 前七十七前六年。前漢の学者。字は子政、名は更生。後に向に改める。編著書に『説苑』『戦国策』『列女伝』などがある。

蚌。蚌亦謂鷸曰。『今日不出、明日不出、即有死鷸。』而者不肯相舍。漁者得而并擒之。今趙且伐燕。燕・趙久相攻、以敝大衆。臣恐強秦之為漁父也。願王熟計之也。惠王曰。『善。』乃止。

【戦国策】 5

- 10 不出 くちばしが抜けない。
- 11 不肯 承知しない。
- 12 舍 やめる。「捨」に同じ。
- 13 秦 戦国の七雄の一つだが、当時最大の強国で他の六国を圧迫していた。

旧字体

常用漢字体と旧字体(正字)の字画が異なる場合は、初出に旧字体を示しました。

代為燕謂惠王。趙且伐燕。蘇易水。蚌方出曝。而鷸啄其肉。蚌合而箝其喙。鷸曰。『今日不雨、明日不雨、即有死。』

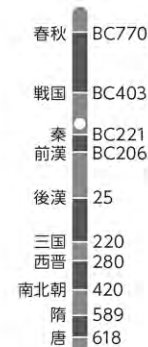


図版
本文の理解を助ける図版を豊富に掲載しました。



年表

作品の書かれた時代もしくは場面を年表で分かりやすく示しました。



●おすすめの教材(漢文編②)

漢文教材は、理解を助けるさまざまな工夫をこらしています。
〈漢文編 第9章 漢語の特色 故事成語を読む〉

● **おすすめの教材**（漢文編③）

教科書としては初の試み。漢文と古文の架け橋として、「憲法十七条」（日本書紀）を掲載しました。

憲法十七條

文字を持たなかつた古代の日本人は、漢語で書かれた文章に漢文を理解し、それを日本語として読解する方法を工夫した。また、日本人の手による漢文も作られた。次に挙げる漢文は、日本初の成文法と言われる「憲法十七条」の一節である。

何事不成〔隣³里²然¹上⁶和下睦⁷諧⁸於⁹論¹⁰事¹¹則¹²事¹³理¹⁴自¹⁵通¹⁶有¹⁷レ¹⁸黨¹⁹亦²⁰少²¹達²²者²³是²⁴以²⁵或²⁶不²⁷順²⁸二²⁹君³⁰父³¹一³²乍³³違³⁴二³⁵于³⁶法³⁷十³⁸七³⁹條⁴⁰一⁴¹曰⁴²以⁴³レ⁴⁴和⁴⁵為⁴⁶貴⁴⁷無⁴⁸忤⁴⁹為⁵⁰レ⁵¹宗⁵²人⁵³皆⁵⁴夏⁵⁵四⁵⁶月⁵⁷丙⁵⁸寅⁵⁹朔⁶⁰戊⁶¹辰⁶²皇⁶³太⁶⁴子⁶⁵親⁶⁶肇⁶⁷作⁶⁸憲⁶⁹〕



（四）年陰曆四月三日。この年の四月の朔（二日）は干支で表すと「丙寅」で「戌辰」はそこから数えると三日。「看法」については、三〇二ページ参照。

（伝聖徳太子像 唐本御影模写）



伝聖徳太子像（唐本御影模写）

●「聖賢」(巻五十七)について、図書館などで、全文を調べてみよう。

●日本書紀 奈良時代に成立した我が国最初の正史(六世紀の第一、巻四四～一七) 歴代天皇の系譜(「帝紀」)や、日本古代の口承された神話・伝説を記録した文は、「編纂日本古典文今更」によぶ。

●舎人親王 六七(一三二五)年、天武天皇の第三皇子。母に天皇の父、日本書

『**現代語訳**』 夏四月の内訌(内乱)の戊辰(三日)に、皇太子は(自身初めて)憲法を講義した。十七条を布(は)きしに、**「國體を尊ぶることを尊んで、逆らひ背くことのないようにせん。」**人は多量な文を組むが、贅言は少ない。それゆゑ、ある者は上皇や父に從はず、ある者は近衛の如くと争ふし、さらに上の者が自ら勢ひを言ひ、事を論じしに意を盡するものであれば、事の道理は自然に通る。何事であれ、成敗しないものはない」と。

- 3 皇太子 履子 皇太子 五十四 六十二年
皇太子 履子 皇太子 五十四 六十二年
皇太子 履子 皇太子 五十四 六十二年
- 4 以和為貴 一 聖人 仁 聖人 仁 聖人 仁
以和為貴 一 聖人 仁 聖人 仁 聖人 仁
- 5 作 作 作 作 作 作 作 作 作 作
作 作 作 作 作 作 作 作 作 作
- 6 作 作 作 作 作 作 作 作 作 作
作 作 作 作 作 作 作 作 作 作
- 7 作 作 作 作 作 作 作 作 作 作
作 作 作 作 作 作 作 作 作 作
- 8 作 作 作 作 作 作 作 作 作 作
作 作 作 作 作 作 作 作 作 作

● **おすすめの教材**（現代文編①）

『言語文化』という科目全体を見通すために、古典と現代文をつなぐ「言文一致」に関する章を設けました。

近代語の成立

話しことばと書きことば

本居宣長の「玉勝間」(二三〇ページ)が成立したのは、一七九三年から、夏目漱石が「夢十夜」(二三七ページ)を発表したのは一九〇八(明治四一)年、およそ一〇〇年余り。読み比べてみると、用いられている日本語

とに驚く。この一〇〇年の間、日本語に何が起きたのだろうか。

話しことばは、口に出された瞬間に消えてしまふ。そのため時
い姿を変えていくものである。これに対して書きことばは、文字と
移り変わりに逆らうて変化しにくい。これまで私たちが学んできた
平安時代中期に、話しことばをモデルとして成立した。その後、話
第に大きくかけ離れていった。近代になると、この大きく隔たつて
づける必要に迫られることになる。こうして、話しことば（言）に、
た「言文一致体」が成立することになった。この文体改革の流れを

話しことばを用いた文章

明治政府はまず、欧米との対等な条約締結に向けて法を整備すると、国語教育の枠組みを作るために、共通語を整える必要に迫られた。

余が言文一致の由来

言文一致についての意見と、そんなたいした研究はまだしてないから、いつそひとつ懺悔話をしよう。それは、自分をはじめて言文一致を書いた由来もすさまじいがつまり、文章が書けないから始まったという一部始終の顛末さ。

もう何年ばかりになるかしらん、よっぽど前のことだ。何かひとつ書いてみたいとは思ったが、元来の文章下手で、かきもく方角が分からぬ。そこで、坪内先生のところへ行って、どうしたらよからうかと話してみると、君は円朝の落語を知っているよう、あの円朝の落語通りに書いてみたらどうかと言う。

で、仰せのままにやってみた。ところが自分は東京者であるから、いうまでもなく東京弁だ。すなわち東京弁の作物が一つできたわけだ。さっそく、先生のところへ持って行くと、とくと目を通しておられたが、たちまちはたとひざを打って、これでいい、そのままでもいい、なまじつか直したりなんぞせぬほうがいい、と、こうおっしゃる。

自分は少し氣味が悪かったが、いいと言ふのを怒るわけにもゆかず、というものの、内心少しはうれしくもあつたさ。それはとにかく、円朝ばりであるから、むろん言文一

《視点》二葉亭西迷がどのような格闘を経て言文一致の文体を獲得したのかを理解しよう。

1 顛末 事のなりゆき。
2 坪内先生 坪内逍遙。
しょうよう

一八五九—一九三五年。
小說家・劇作家・翻譯家・評論家。一八八五年

れた文学論「小説神髓」と小説「当世書生気質」とは、日本の小説近

代化への先駆をなした。
ほかにシェークスピア作
品の全訳などがある。

3 円朝 三遊亭円朝。一八三九—一九〇〇年。幕末から明治にかけて活躍し

た落語家・落語作家。代表作に『怪談牡丹灯籠』（おにだんぼ はんとうろう）『真景累ヶ淵』などがある。

羅生門

芥川龍之介

【視点】時・場所・人物などの基本的な設定を押さえよう。比喩や情景描写にも注意しながら「下人の心情を読み取ろう」。

言語文化

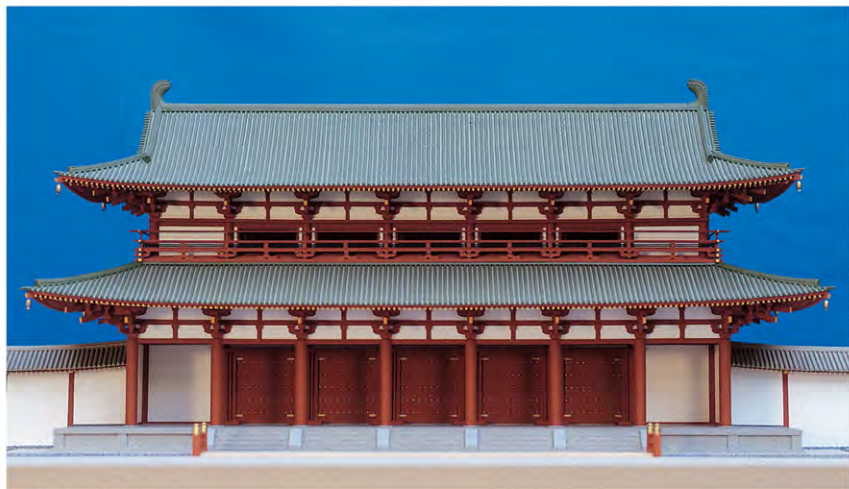
ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗りの剥げた、大きな円柱に、蟋蟀が一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかに、雨やみをする市女笠や採烏帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかに誰もいない。

なぜかという、この二、三年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいう災いがつづいて起こった。そこで洛中のさびれ方は一通りではない。旧記によると、仏像や仏具を打ち砕いて、その丹がついたり、金銀の箔がついたりした木を、道ばたにつみ重ねて、薪の料に売っていたということがある。洛中がその始末であるから、羅生門の修理などは、もとより誰も捨てて顧みる者がなかった。するとその荒れ果てたのをよいことにして、狐狸が棲む。盗人が棲む。とうとうしまいには、引き取り手のない死人を、この門へ持ってきて、棄てていくという習慣さえできた。そこで、目の目が見えなくなると、誰でも気味を悪がって、この門の近所へは足ふみをしないことになってしま



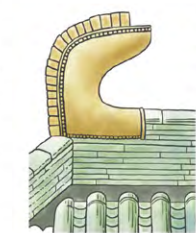
linkマーク

『言語文化』でもlinkマークのある教材は、インターネット上に参考資料があります。教科書「凡例」ページのQRコードもしくはURLを開くと、小社ホームページの「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料へのリンクが掲載されています。



羅生門復元模型

ったのである。
 その代わりまた鴉がどこからか、たくさん集まってきた。昼間見ると、その鴉が、何羽となく輪を描いて、高い鷗尾のまわりを啼きながら、飛びまわっている。殊に門の上の空が、夕焼けであかくなる時には、それが胡麻をまいたように、はつきり見えた。鴉は、もちろん、門の上にある死人の肉を、啄みにくるのである。
 もっとも今日は、刻限が遅いせいか、一羽も見えない。ただ、所々、崩れかかった、そうしてその崩れ目に長い草のはえた石段の上に、鴉の糞が、点々と白くこびりついているの見える。下人は七段ある石段のいちばん上の段に、洗いざらした紺の襖の尻を据えて、右の頬にできた、大きなきびを気にしながら、ば



12 襖「狩衣」に裏をつけたもの。庶民の普段着。二九八ページ参照。



7 採烏帽子 主に庶民が用いた柔かく作った烏帽子。こは、それをかぶった男。

8 辻風 つむじ風。
 9 洛中 京の町中。都の中。
 10 旧記 古い記録。鴨長明の『方丈記』に、同内容のことが書かれている。
 11 鷗尾 宮殿などの棟の両端に取り付ける鳥または魚の尾の形をした飾り。

参考イラスト

脚注欄には適宜、理解を助けるイラストを入れました。

●おすすめの教材（現代文編②）

本文理解の助けとなる「学習の手引き」が充実。

「理解」「表現」の二項目に分けて、本文の理解を補助します。

学習の手引き

本文中の常用漢字より、重要な漢字は、教材ごとに整理。

重要漢字

重要漢字……

214 剥（剥離）	214 震（震源）	214 碎（粉碎）	214 盜（盜賊）	215 遅（遅刻）	215 紺（濃紺）	216 闇（暗闇）	217 飢（飢餓）
217 肯（首肯）	217 憂（憂鬱）	218 濁（濁流）	218 隅（片隅）	219 臭（悪臭）	219 挿（挿入）	220 弊（弊害）	220 股（股間）
220 塞（閉塞）	221 罵（罵倒）	222 喉（喉元）	222 凡（凡庸）	222 蔑（輕蔑）	222 蛇（蛇口）	223 嘲（嘲笑）	224 蹴（一蹴）

- 理解
- (1) 次の項目を整理し、物語の設定を確認しなさい。
 - ① 時代・季節・時間帯。
 - ② 「下人」「老婆」の境遇。
 - ③ 舞台となっている場所。
 - (2) 全体を四つの場面に分け、「下人」の心理の移り変わりを整理しなさい。
 - (3) 「老婆」の主張の要点を二つ挙げなさい。
 - (4) 「下人の行方は、誰も知らない。」（三四・10）という結びにはどのような意味や効果があるか、説明しなさい。
- 表現
- (1) 羅生門の下で雨やみを待っている「下人」は、洛中・洛外のどちらからやって来て、どちらへ行ったと考えられるか、発表してみよう。
 - (2) このあとの「下人」の行方と行動を想像して、続編のあらすじを二百字以内で書いてみよう。

読解の窓

古典と近代文学

芥川龍之介の小説は『今昔物語集』『宇治拾遺物語』などの古典をもとに書かれているものが少なくない。日本の古典文学にとどまらず、中国の古典をもとにした「杜子春」など、作品の典拠は幅広い。芥川の他にも森鷗外・中島敦・坂口安吾・円地文子など、古典をもとに自らの創作を繰り広げた作家はたくさんいる。太宰治の『新釈諸国断』は井原西鶴、三島由紀夫の『近代能楽集』は能や歌舞伎などの作品を典拠にしている。

『羅生門』の典拠は『今昔物語集』の「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」（二二六ページ）であるが、「太刀帯陣売魚傭語」の内容も一部交え、またそれら原典に大きなアレンジが加えられている。芥川が力点を置いたのは、老婆の自己正当化の論理に触発され、ついに盗人となる下人の心理変化である。芥川は古典を近代的な心理小説として脚色することによって近代小説のページを開いたのである。

古いものが新しいものを生み出すきっかけとなる。近代文学と古典を読み比べながら、両方を味わってほしい。

読解の窓

『言語文化』現代文編の学習に必要な知識や、主体的・対話的で深い学びへと誘う解説を掲載しました。

●現代文編【参考】

教材の理解を深め、比べ読み学習に最適な「参考」教材を掲載しました。

参考

「羅生門」との比べ読み教材として、『今昔物語集』から、小説のもととなった説話を掲載。

【参考】 羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語

（『今昔物語集』巻二十九第十八）

今は昔、摂津の国の辺より、盗みせむがために京に上りける男の、日のいまだ明かりければ、羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀の方に人しげくありければ、人の静まるまでと思ひて、門の下に待ち立てりけるに、山城の方より人どものあまた来たる音のしければ、それに見えじと思ひて、門の上層にやはらかかり登りたりけるに、見れば、火ほのかにともしたり。

盗人、「怪し。」と思ひて、連子よりのぞきければ、若き女の、死にて臥したるあり。その枕上に火をともして、年いみじく老いたる姫の、白髪白きが、その死人の枕上にゐて、死人の髪をかなぐり抜き取るなりけり。

盗人これを見るに、心も得ねば、「これはもし鬼にやあらむ。」と思ひておそろしけれども、「もし死人にてもぞある、おどして試みむ。」と思ひて、やはら戸を開けて、刀を抜きて、「己は、己は。」と言ひて走り寄りければ、姫、手まどひをして、手を摺りてまどへば、盗人、「こは何ぞの姫のかくはしめたるぞ。」と問ひければ、姫、「己が主にておはしましつる人の失せたまへるを、あつかふ人のなれば、かくて置きたてまつりたるなり。その御髪の長に余りて長ければ、それを抜き取りて髪にせむとて抜くなり。助けたまへ。」と言ひければ、盗人、死人の着たる衣と姫の着たる衣と、抜き取りてある髪とを奪ひ取りて、下り走りて逃げて去りにけり。

さてその上の層には死人の骸骨ぞ多かりける。死にたるひとの、葬りなどえせぬをば、この門の上にぞ置きける。

このことは、その盗人の人に語りけるを聞き継ぎて、かく語り伝へたとや。

1 摂津の国 大阪府北西部と兵庫県南東部の古い国名。「せっつ」。

2 朱雀 朱雀大路。

3 山城 京都府南部の古い国名。こは、都の外、羅城門の南側をさす。

4 やはらかかり登りたりけるに そつとよじ登ったところ。

5 連子 縦または横に細木や竹を打ち付けた窓。

6 心も得ねば 納得がいかないので。

7 鬼 当時、羅城門には鬼が住むと考えられていた。

8 死人 こは、死者の霊の意か。

9 手まどひ うろたえて、思うように手が使えないこと。慌てふためくこと。

10 長に余りて長ければ 背丈以上に長いので。

11 葬りなどえせぬ 葬儀などできない死者。

●読書案内

『言語文化』について理解を深め、世界を広げる書籍を紹介しています。

読書案内(現代文編)

深く味わう

本を開くことばや物語が、私たちを広く新しい世界へと誘ってくれる。それは時に、遠い国へと旅をするような気持ちを与えてくれるのではないだろうか。読書の世界が導く喜び、楽しみを感じよう。



『ちくま小説入門』(紅野謙介・清水良典) 高校生に勧めたい小説作品を二十一本収録したアンソロジー。小説の読み方もあわせて解説した一冊。



『国語元年』(井上ひさし) 明治初頭、さまざまな方言が飛び交う中、「全国統一話言葉」の制定を命じられた官吏・南郷清之輔の奮闘をユーモラスに描く戯曲。



『夢十夜・文鳥ほか』(夏目漱石) 『夢十夜』(二七ページ) は文字通り十の夜の夢について語られている。教科書に収められた『第一夜』『第六夜』以外の『夢』も読んでみよう。



『物語の役割』(小川洋子) 人はなぜ物語を必要とするのか。私たちを支え、導き、勇気づける物語の力とは何か。物語の名字である著者の思索に深く考えさせられる。



『詩の楽しみ——作詩教室』(吉野弘) 『was born』(二八四ページ) の作者が平易な言葉で語る詩の読み味わい方、作り方。詩の世界の奥深さを感じられる。



『短歌をよむ』(俵万智) 短歌を「読む」「詠む」とはどういうことか。古典和歌から現代短歌、そして私たち自身の創作まで、短歌が持つ心を感じよう。



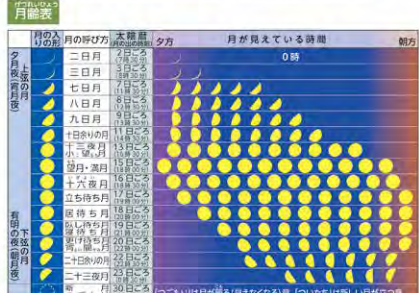
『合本 俳句歳時記』(角川書店編) 俳句を読み味わうときや創作の際に重宝するのが、季語を集めて編まれた「歳時記」だ。季語を通してこはの豊かさを楽しもう。

●付録

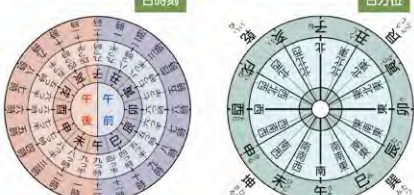
古典常識(装束・調度・暦法)など、古典理解に必須の図版をコンパクトにまとめたミニ便覧。



月	正月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
節分	立春	雨水	惊蛰	春分	清明	谷雨	立夏	芒种	夏至	小暑	立秋	处暑
大寒	小寒	大雪	小雪	立冬	秋分	白露	处暑	立秋	白露	秋分	寒露	霜降



干支	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
年	鼠	牛	虎	兔	龍	蛇	馬	羊	猴	雞	犬	猪
月	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
日	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥



*青字は教科書本文と同一箇所、緑字は、教科書本文と同一出典。

●『現代の国語』収録教材の筆者の大学入試出典一覧(一部)

『は書名』、『は文章タイトル

内田 樹

『街場の戦場論』—大阪大
『下流志向』—岐阜大
『ことばとは何か』—麗澤大
『寝ながら学べる構造主義』—九州大
『日本辺境論』—東海大・大阪大

黒崎政男

『哲学者クロサキの哲学超入門』—東洋英和女学院大
『哲学者クロサキの哲学する骨董』—大阪市立大・中京大

中屋敷 均

『科学と非科学』—北海道大・東京大

中村桃子

『女ことばはつくられる』—岩手大

鷲田清一

『老いの空白』—橋大
『〈ひと〉の現象学』—東京経済大・明治大
『ひとはなぜ服を着るのか』—慶應義塾大
『哲学の使い方』—東京都立大・山梨大・日本女子大・成蹊大
『しんがりの思想』—早稲田大・鹿児島大・亜細亜大
『京都の平熱』—早稲田大
『わかりやすいはわかりにくい?』—法政大・信州大・琉球大・
明治大・青山学院大・成蹊大・筑波大・中央大
『つかふ』—使用論ノート』—広島大・早稲田大

松村圭一郎

『文化人類学の思考法』—静岡大

国谷裕子

『ポスト真実時代のジャーナリズムの役割』—静岡大・熊本大

長田 弘

『なつかしい時間』—法政大
『幸福という一語』—橋大
『失われた時代』—京都大
『詩人であること』—東京大

伊藤亜紗

『目の見えない人は世界をどう見ているのか』—大阪府立大
『手の倫理』—北海道大・九州大

山田登世子

『声の銀河系』—奈良女子大

堀江敏幸

『青空の中和のあとで』—東京大
『象が踏んでも』—関西学院大
『誕生日について』—都立大
『回送電車』—法政大

國分功一郎

『中動態の世界』—明治大・慶應義塾大
『暇と退屈の倫理学』—慶應義塾大・龍谷大・関西大・同志社大
『中動態から考える利他・責任と帰責性』—関西大

●『言語文化』(現代文分野)収録教材の筆者の大学入試出典一覧(一部)

リービ英雄

『日本語を書く部屋』—鳥取大・東京大・センター追試
『星条旗の聞こえない部屋』—山形大

蜂飼 耳

『馬の歯』—東京大
『崖のにおい』—畿央大

津島祐子

『物語る声を求めて』—京都大

ブレイディ
みかこ

『子どもたちの階級闘争』—大阪府立大
『コロナ後の世界を語る』—早稲田大

宇野重規

『〈私〉時代のデモクラシー』—椋山女学園大・獨協大
『プロジェクト』—未来を〈待つ〉ために』—学習院女子大

若林幹夫

『増補 地図の想像力』—愛知大
『サイバーシティは』人を自由にする』か』—北海道大
『社会学入門 歩前』—明治大

野矢茂樹

『大人のための国語ゼミ』—白百合女子大
『心という難問』—大阪大・三重大・学習院大
『哲学の謎』—大阪大
『語りえぬものを語る』—上智大・成蹊大・神戸大・福島大
『他者の声 実在の声』—成蹊大・関西学院大
『哲学・航海日誌Ⅱ』—上智大

岩井克人

『会社はこれからどうなるのか』—小樽商科大
『経済学の宇宙』—埼玉大
『戦後七〇年 日本の立ち位置は②』—学習院大
『日本資本主義を「不純」に』—中央大
『二十一世紀の資本主義論』—センター試験
『経済危機の行方』—九州産業大

小坂井敏晶

『神の亡霊』—東京大
『民族という虚構』—静岡文化芸術大・関西学院大・上智大
『異邦人のまなざし』—立教大
『異文化受容のパラドックス』—防衛大
『責任という虚構』—成蹊大・畿央大・滋賀大
『主体という物語』—小樽商科大
『責任』—責任概念と近代個人主義』—早稲田大

岡 真理

『文化が違う』とは何を意味するのか』—橋大

大澤真幸

『自由という牢獄』—金城学院大・東北大
『新世紀のコミュニズムへ』—早稲田大

西谷 修

『離脱と移動』—早稲田大
『戦争論』—大阪府立大・法政大
『ふるさと、またはソラリスの海』—関西学院大
『名づけと所有』—國學院大
『記憶の満天』—大妻女子大
『夜の鼓動にふれる』—麗澤大
『いのちのかたち』—畿央大

指導資料一覧

評価問題・教科書紙面 PDF・実践用ワークシート・

図解穴埋めワークシート・ルーブリック評価シートなど、さらに充実しました。

指導資料各種の内容		現代の国語（現国712）本体20,000円	言語文化（言文712）本体26,000円
指導書『学習指導の研究』（A5判）		4分冊	5分冊
指導資料データ（CD-ROM）	教科書本文データ	一太郎・Word	一太郎・Word
	訓点付き漢文原文データ	—	一太郎・Word・PDF
	古文品詞分解	—	一太郎・Word
	漢文書き下し文	—	一太郎・Word
	古文・漢文現代語訳	—	一太郎・Word
	〈テスト・評価問題〉基本問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	〈テスト・評価問題〉標準問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	〈テスト・評価問題〉発展問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	〈テスト・プリント〉小テスト問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
オンライン指導資料	漢文編集システム	—	一太郎・Word
	教科書紙面PDF	PDF	PDF
	課題ノートデータ	一太郎・Word	一太郎・Word
	授業用プリント	一太郎・Word	一太郎・Word
	実践用ワークシート	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
	図解穴埋めワークシート	PDF	—
	授業用図版素材	PDF	PDF
	ルーブリック評価シート	Excel	Excel
学習link集		デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ
朗読CD		—	※別売 本体6,000円（2枚組）
指導書分冊『学習指導の研究』PDFファイル版		※別売 本体5,000円	※別売 本体6,000円

論理国語（論国710）本体34,000円	文学国語（文国708）本体34,000円	古典探究（古探715/716）本体36,000円
5分冊	5分冊	6分冊
一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
—	—	一太郎・Word・PDF
—	—	一太郎・Word
—	—	一太郎・Word
—	—	一太郎・Word
一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
—	—	一太郎・Word
PDF	PDF	PDF
一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
PDF	—	—
PDF	PDF	PDF
Excel	Excel	Excel
デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ
—	※別売 本体8,000円（3枚組）	※別売 本体6,000円（2枚組）
※別売 本体6,000円	※別売 本体6,000円	※別売 本体6,000円

指導書『学習指導の研究』の内容

全体を次の項目で構成しています。

■単元の解説

単元のねらい・教材編集の意図・この単元で身につく能力・資質

■教材のねらい

教材ごとに見開きで指導のポイントを解説

■学習指導の展開例

教材の指導計画案（配当時間）・指導目標・学習活動・指導上の留意点

■出典

■著者（作者）解説

■要旨（主題）

100字200字の二種

■意味段落の要旨

教材の全体を意味段落による表で示し、各段落の内容を要約

■全体の構成図

教材本文の流れをチャート形式で図解（※現代文教材のみ）

■叙述と注解

教材本文の語句の解説や、文脈上での叙述の解釈

■学習のポイント

授業前のトピックの紹介や、各段落の要点を整理

（※現代文教材のみ）

■発問例／脚問の解答

教科書収録の脚問と、発問例・解答。各問には難易度を表示

■板書例

授業の要所要所で示す板書例

■キーワード

本文理解に重要なキーワードを解説（※現代文教材のみ）

■作品解説（鑑賞）

■参考資料

■参考文献

■手引きの解答例・指導上の留意点

■オンライン指導資料

古文・漢文教材には、このほか以下の項目があります。

■品詞分解 ※古文編

■総ルビ付き本文 ※古文編

■総ルビ付き訓読（書き下し文）※漢文編

■現代語訳 ※古文編・漢文編

漢文編集システム

漢文の問題作成も手軽にできます。

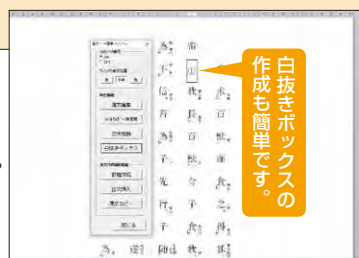
①パソコンに新たなソフトをインストールする必要なし。

（Microsoft Word® を利用した全く新しい編集システム）

②返り点や送り仮名などの訓点・傍線・記号などの入力・加工が簡単にできます。

③編集システムを利用してオリジナル訓点付き本文も作成できます。

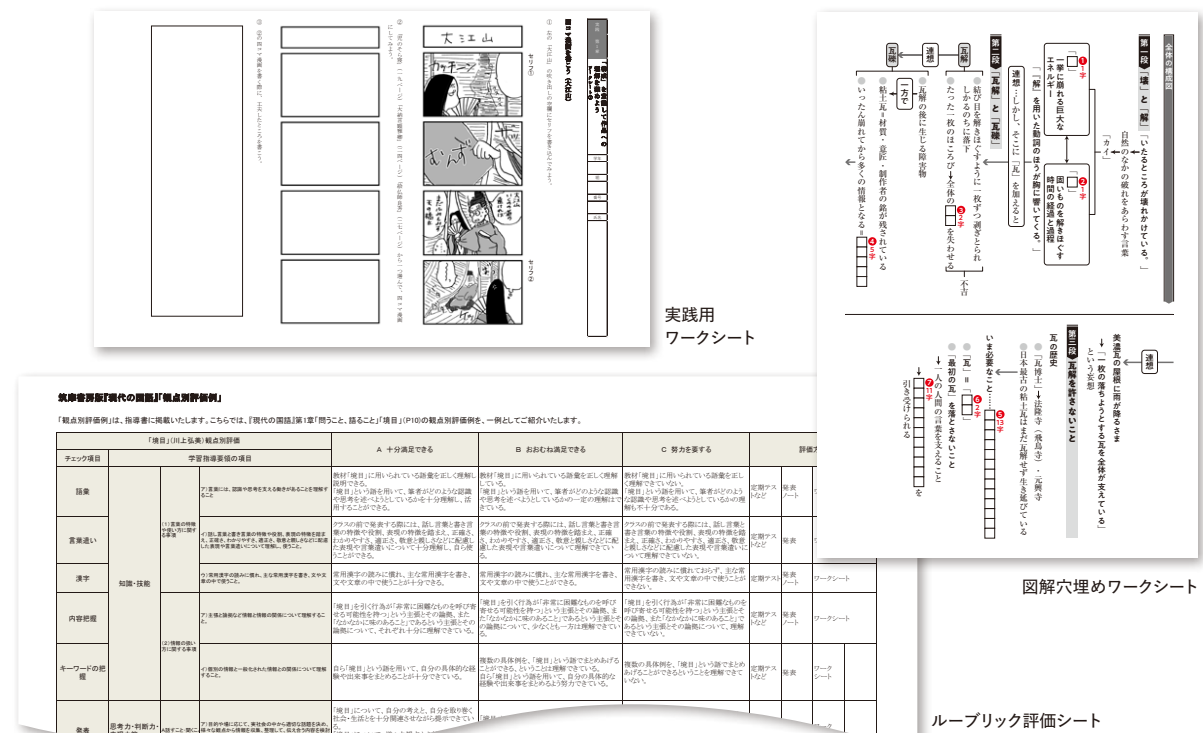
動作環境／対応 OS：Windows 10,11／対応ソフト：Microsoft Word 2003 以降



白抜きボックスの作成も簡単です。

オンライン指導資料

指導書『学習指導の研究』を通して、下記のオンライン指導資料が利用できます。



図解穴埋めワークシート

ルーブリック評価シート

授業をサポートする周辺教材のご案内

朗読CD 指導資料



『言語文化』
朗読CD 2枚組
本体6,000円+税
／ISBN 978-4-480-90583-3



『文学国語』
朗読CD 3枚組
本体8,000円+税
／ISBN 978-4-480-90598-7



『古典探究
(古文編・漢文編)』
朗読CD 2枚組
本体6,000円+税
／ISBN 978-4-480-90599-4

準拠課題ノート一覧 学校専売品

現国712



現代の国語 課題ノート

B5判／別冊解答付／
書き込み式／96頁／
本体500円+税
ISBN 978-4-480-91055-4

言文712



言語文化 課題ノート

B5判／別冊解答付／
書き込み式／128頁／
本体550円+税
ISBN 978-4-480-91054-7



論国710

論理国語 課題ノート

B5判／別冊解答付／書き込み式／160頁
本体770円+税 ISBN 978-4-480-91056-1



文国708

文学国語 課題ノート

B5判／別冊解答付／書き込み式／144頁
本体770円+税 ISBN 978-4-480-91057-8



古探715・716

古典探究 課題ノート [古文編・漢文編]

B5判／別冊解答付／書き込み式／240頁
本体840円+税 ISBN 978-4-480-91058-5

補助教材集

ちくま文学講読〈初級編〉

監修 東京大学 安藤 宏
日本大学 紅野謙介

A5判／128頁／本体560円+税／ISBN 978-4-480-91091-2

文学の世界を広げる準教科書。1年生でもっと文学的文章を生徒に触れさせたい先生方に！

＊指導資料も完備(別売)＊ 学校専売品

指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付

A5判／368頁／本体7,000円+税／ISBN 978-4-480-90584-0

ちくま文学講読〈上級編〉

監修 東京大学 安藤 宏
日本大学 紅野謙介

A5判／256頁／本体900円+税／ISBN 978-4-480-91740-9

文学の世界を深める準教科書。2・3年生で必須の文学的文章を扱いたい先生方に！

＊指導資料も完備(別売)＊ 学校専売品

指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付

A5判／792頁(予定)／本体9,000円+税／ISBN 978-4-480-91744-7



デジタル教科書 指導資料

学校専売品



現代の国語 指導者用デジタル教科書 (DVD-ROM版)
本体50,000円+税／ISBN 978-4-480-90581-9
現代の国語 指導者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 10 ID
本体52,000円+税／ISBN 978-4-480-90582-6

現代の国語

学習者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 1 ID
本体1,500円+税／
ISBN 978-4-480-91097-4



言語文化 指導者用デジタル教科書 (DVD-ROM版)
本体60,000円+税／ISBN 978-4-480-90580-2
言語文化 指導者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 10 ID
本体62,000円+税／ISBN 978-4-480-90579-6

言語文化

学習者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 1 ID
本体1,800円+税／
ISBN 978-4-480-91099-8



論理国語 指導者用デジタル教科書 (DVD-ROM版)
本体32,000円+税／ISBN 978-4-480-90594-9
論理国語 指導者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 10 ID
本体34,000円+税／ISBN 978-4-480-90591-8

論理国語

学習者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 1 ID
本体1,500円+税／
ISBN 978-4-480-91100-1



文学国語 指導者用デジタル教科書 (DVD-ROM版)
本体36,000円+税／ISBN 978-4-480-90595-6
文学国語 指導者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 10 ID
本体38,000円+税／ISBN 978-4-480-90592-5

文学国語

学習者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 1 ID
本体1,500円+税／
ISBN 978-4-480-91101-8



古典探究 [古文編・漢文編]
指導者用デジタル教科書 (DVD-ROM版)
本体36,000円+税／ISBN 978-4-480-90597-0
古典探究 [古文編・漢文編]
指導者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 10 ID
本体38,000円+税／ISBN 978-4-480-90593-2

古典探究 [古文編・漢文編]

学習者用デジタル教科書 (クラウド版)
＊1ライセンスあたり 1 ID
本体1,700円+税／
ISBN 978-4-480-91102-5

デジタル教科書関連書 次の副読本は、筑摩書房版デジタル教科書に関連づけられています。



詳説 古典文法 改訂版

井島正博 編著 伊藤博美・仲島ひとみ 著
＊指導資料・補充問題データCD-ROM
A5判／別冊解答付／176頁／
本体680円+税／ISBN 978-4-480-91737-9
学校専売品

詳説 古典文法 改訂版

準拠 学習ノート
『詳説古典文法 改訂版』編集委員会 編著
B5判／別冊解答付／64頁／
本体500円+税／ISBN 978-4-480-91092-9
学校専売品



詳説 漢文句法 改訂版

三上英司 編著 石村貴博・大橋賢一・泊 功 著
＊評価問題データCD-ROM
A5判／別冊解答付／224頁／
本体700円+税／ISBN 978-4-480-91738-6
学校専売品

詳説 漢文句法 改訂版

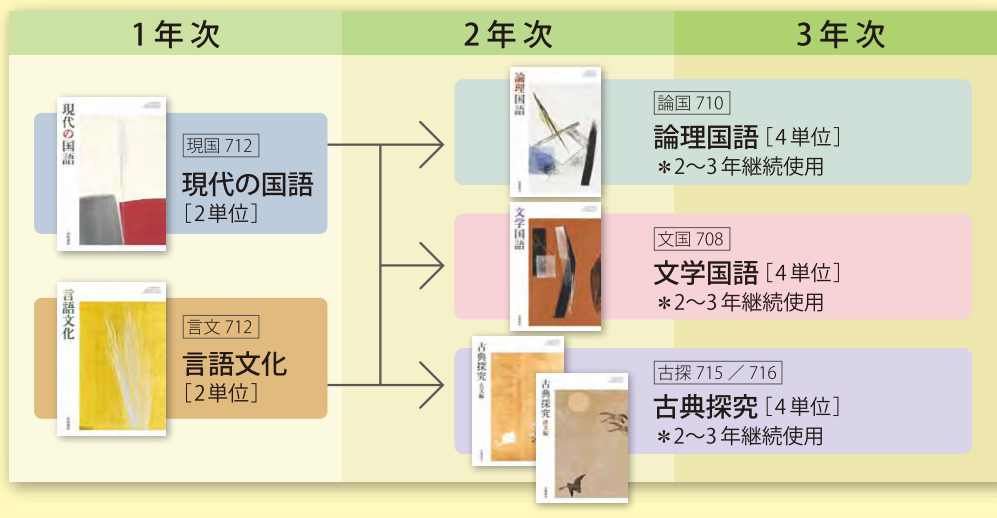
準拠 学習ノート
北島大悟 編著
B5判／別冊解答付／48頁／
本体500円+税／ISBN 978-4-480-91093-6
学校専売品



10のグループで覚える 読解 古文単語343

村田正純・吉田 光 著
＊自動問題作成システム(Web版)
B6変型判／256頁／
本体900円+税／
ISBN 978-4-480-91735-5

筑摩書房版 教科書の展開例



教科書名	教科書調査の観点（発行者 143 筑摩）					
	(1) 内容			(2) 構成・分量	(3) 表記・表現および 使用上の便宜	(4) その他
	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③言語活動			
現代の国語 (現国712)	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項について理解を深める評論教材や学習の手引きが充実している。	A 話すこと・聞くことについて 具体的な場面を想定した幅広い学習活動が示され、十分配慮されている。	主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。	・教材収録本数が多く、分野も多岐にわたり、教材選択の幅が広い。	・脚注や地図・図版などが適宜掲げられており学習の便宜が図られている。	・意欲的に発掘された新教材が数多く掲載されていて清新な印象を受けた。
	(2) 情報の扱い方について理解を深め、自ら情報を利用して思考するための評論教材や言語活動が充実している。	B 書くこと 書くことの資質・能力に資する教材が充実しており、十分配慮されている。		・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。	・手引きや脚間によって理解を深められるよう配慮されている。	・評論読解に役立つコラムがよく整理されている。
	(3) 実社会との関わりを考えるための読書について、教材ごとに著者の主な作品が紹介されており、十分配慮されている。	C 読むこと 論理的な文章や実用的な文章について、根本から問い直し、現代的な視点から論理的思考を育む教材が充実している。		・教材ごとに「視点」が示され、教材を通して学習の見通しがたつように工夫されている。	・教材ごとに「課題」と「言語活動」が示され、資質・能力を身につけるステップが分かりやすい。	・単元ごとに「実践」が示され、単元を通じて身につける資質・能力が明確である。
言語文化 (言文712)	(1) 言葉の特徴や使い方について理解を深める古文・漢文教材や近代以降の文学的な文章と、学習の手引きが充実している。	A 書くこと 書くことの資質・能力に資する教材や実践例が充実しており、十分配慮されている。	主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。	・教材収録本数が多く、分野も多岐にわたり、教材選択の幅が広い。	・脚注や系図・地図、手引きや時代区分、脚間などが適宜掲げられていて効果的である。	・巻末付録の「古語の理解」「古典常識」が授業に役立ち、評価できる。
	(2) 我が国の言語文化に関する知識・技能が身につく古文・漢文教材や近代以降の文学的な文章と、言語活動が充実している。	B 読むこと 古文・漢文と、近代以降の文学的な文章について理解し、自らのものの見方、感じ方、考え方を深める教材が充実している。		・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。	・特に絵巻物などのカラー図版が時代・風俗を理解する際に有効である。	
	(3) 我が国の言語文化への理解を深める読書について、読書案内が示されており、十分配慮されている。			・教材ごとに「視点」が示され、生徒の学習の見通しがたつように工夫されている。	・単元ごとに「実践」が示され、単元を通じて身につける資質・能力が明確である。	

「教科書調査の観点」のほか、シラバスなどの資料は、筑摩書房の教科書サイト「ちくまの教科書」からダウンロードできます。
<https://www.chikumashobo.co.jp/kyoukasho/>



筑摩書房

特設サイト



ちくましょぼう
筑摩書房

〒111-8755 東京都台東区蔵前 2-5-3

●ご注文・見本の請求 営業部／tel. 03(5687)2680

●内容に関するお問い合わせ 編集部／tel. 03(5687)2674